

# 第2章 | 現状と課題

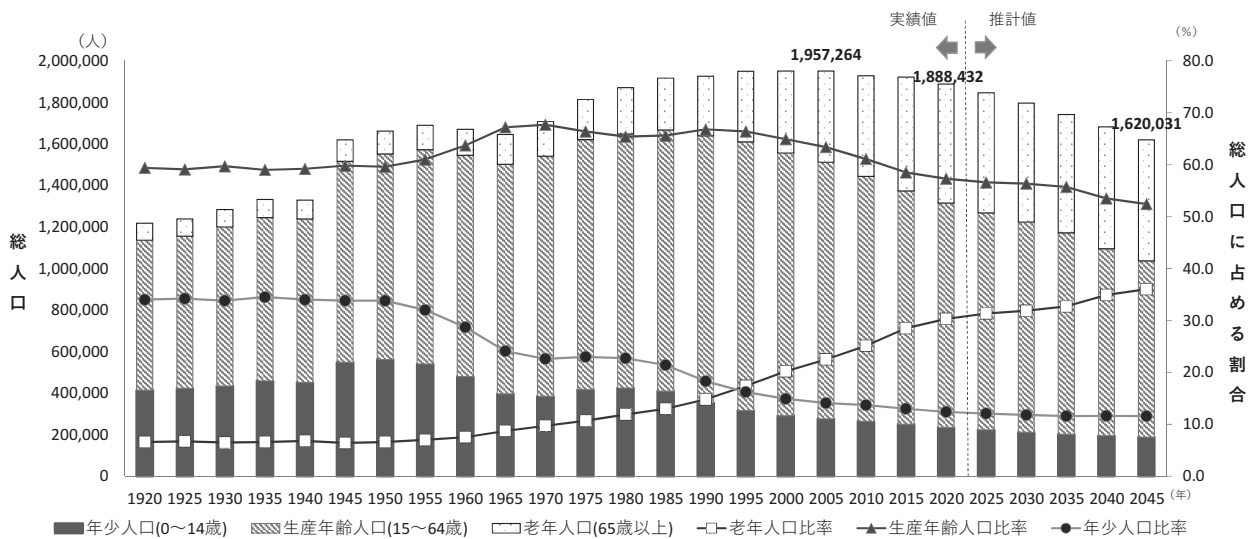


## 1 子ども・若者を取り巻く社会環境と子ども・若者の状況

### ①本格的な人口減少社会の到来と子ども・若者人口の減少

- 我が国の将来人口は、「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計 国立社会保障・人口問題研究所)」等によると、毎年の減少スピードが2020年代前半の年56万人程度から、2030年代後半には年86万人程度に加速し、総人口は令和27(2045)年には1億642万人にまで減少すると推計されています。
- 本県の人口は、平成17(2005)年の約196万人をピークに減少が続いており、将来人口は、年間の減少数が2030年代には1万人を超え、令和27(2045)年には、約162万人まで減少すると推計されています。
- 本県の子ども・若者(0～29歳)の人口は昭和50(1975)年以降減少しており、令和2(2020)年の約50万人から、令和27(2045)年には約40万人まで減少すると推計されています。

図表1 / 総人口及び人口構造の推移と見通し(岡山県)

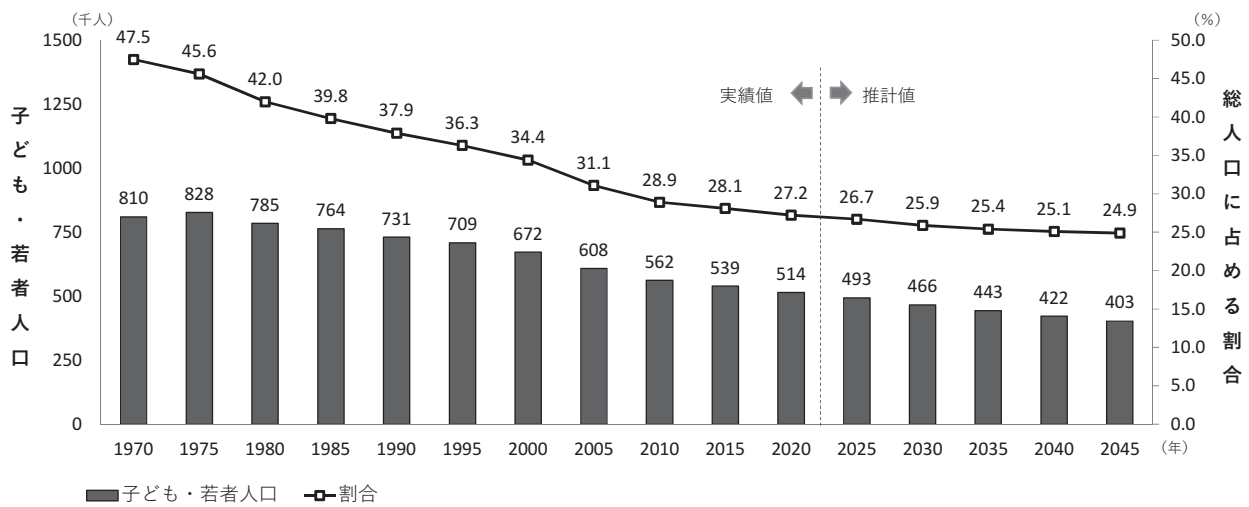


※令和7(2025)年からの推計値は平成27(2015)年国勢調査の結果を基に推計した値

資料：令和2(2020)年までの実績値「国勢調査」(総務省)

令和7(2025)年からの推計値「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

図表2 / 子ども・若者人口及び割合の推移と見通し(岡山県)



※子ども・若者人口：0～29歳の人口（10月1日現在）

※令和7（2025）年からの推計値は平成27（2015）年国勢調査の結果を基に推計した値

資料：令和2（2020）年までの実績値「国勢調査」（総務省）

令和7（2025）年からの推計値「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）

## ②少子化の進行

■「人口動態統計」（厚生労働省）によると、我が国の第2次ベビーブーム期（昭和46（1971）年～昭和49（1974）年）以降における出生数は、昭和48（1973）年の約209万人をピークに減少しており、平成28（2016）年の出生数は約98万人と明治32（1899）年の統計開始以来初めて100万人を割りこんだ後、令和2（2020）年は約84万人と過去最小の出生数となっています。

■合計特殊出生率<sup>\*</sup>は、第2次ベビーブーム期を含め、ほぼ2.1台で推移しましたが、昭和50（1975）年に2.0を下回って以降低下傾向となっています。平成17（2005）年には過去最低である1.26まで落ち込み、その後は、微増傾向で推移したものの、平成28（2016）年から再び低下し、令和2（2020）年は1.33となっています。

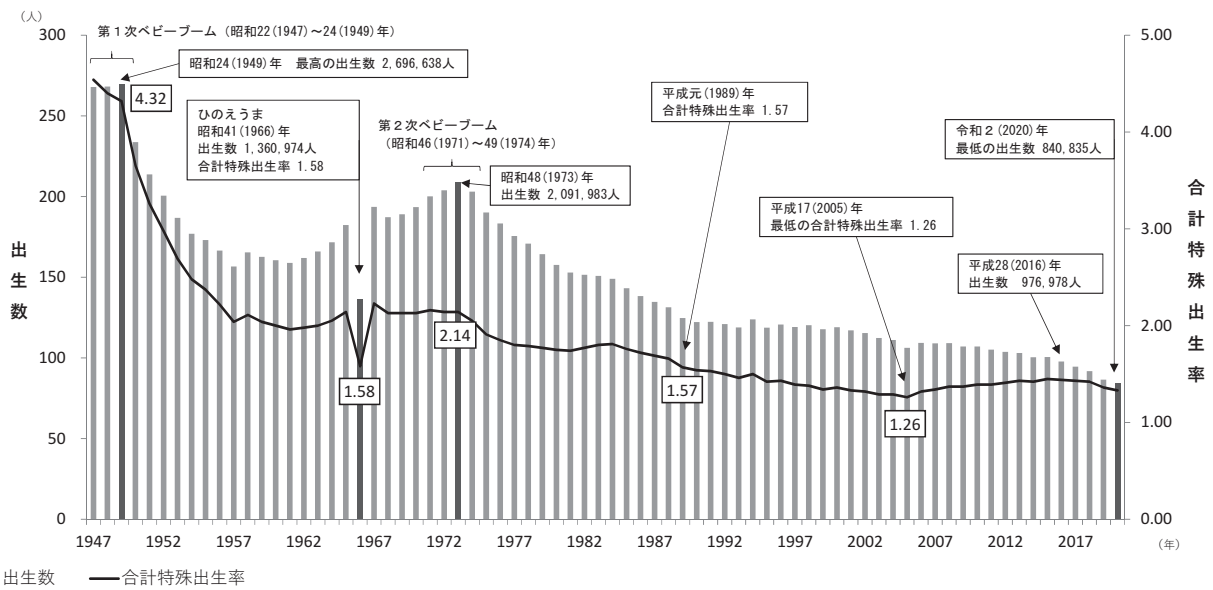
■本県における第2次ベビーブーム期以降の出生数は、昭和48（1973）年の31,996人をピークに減少しており、令和2（2020）年の出生数は13,521人で、ピークと比べると半分以下の水準となっています。

■本県の合計特殊出生率は、昭和50（1975）年には2.05でしたが、平成17（2005）年に過去最低の1.37まで低下し、その後回復傾向にありましたが、ここ数年はほぼ横ばいで推移しています。令和2（2020）年の合計特殊出生率は1.48となり、全国平均より高くなっています。

■新型コロナウイルス感染症による自粛生活の影響により、令和2（2020）年の全国の婚姻件数、妊娠届出数は減少しており、感染拡大による出生数の減少が懸念されます。

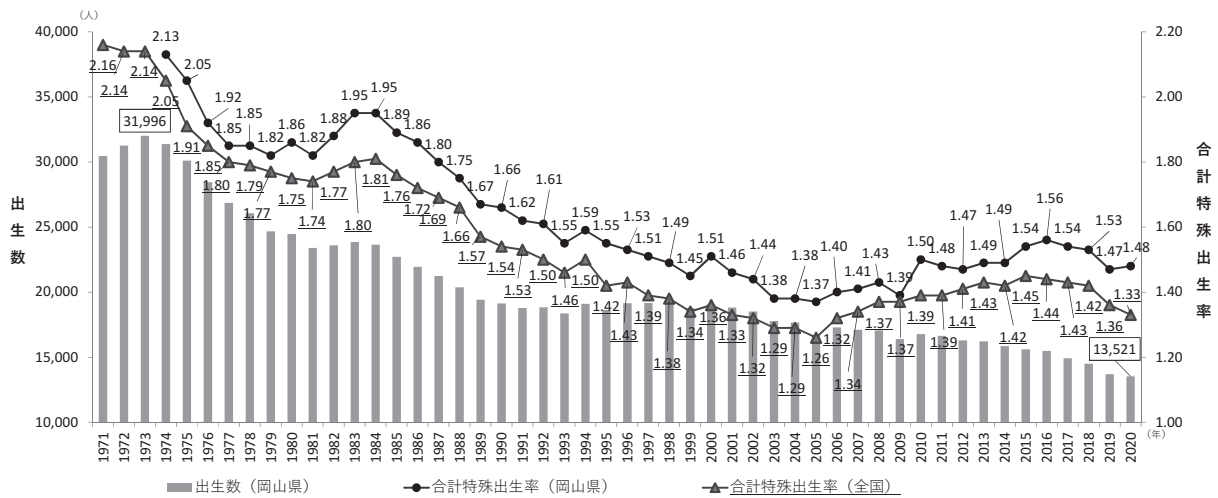
※合計特殊出生率：その年次の15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が、仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に子どもを生むと仮定したときの子ども数に相当する。

図表3 / 出生数及び合計特殊出生率の推移 (全国)



資料：「人口動態統計」(厚生労働省)

図表4 / 出生数及び合計特殊出生率の推移 (全国・岡山県)



※令和2(2020)年度は人口動態統計月報年計(概数)の概況

資料：「人口動態統計」(厚生労働省)

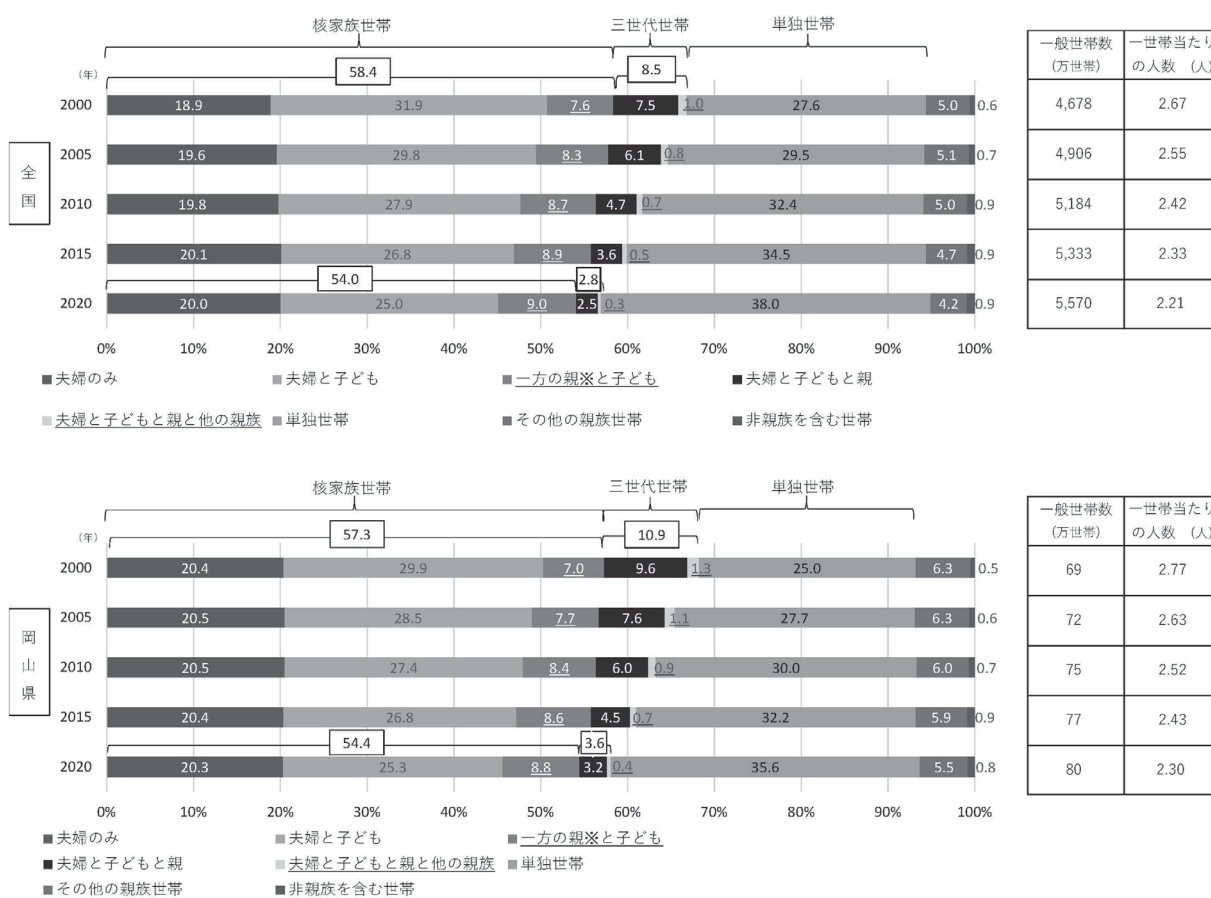
### ③世帯構造の変化

■「国勢調査」(総務省)によると、全国では、一般世帯数は増加傾向にあります。一世帯当たりの人数は減少傾向にあります。世帯構成では、平成12(2000)年から令和2(2020)年までの間に、核家族世帯の割合は58.4%から54.0%へ、三世帯世帯の割合は8.5%から2.8%へ、それぞれ減少している一方、単独世帯の割合は27.6%から38.0%へ増加しています。

■本県においても、一般世帯数は増加傾向にあります。一世帯当たりの人数は減少傾向にあります。世帯構成では、平成12(2000)年から令和2(2020)年までの間に、核家族世帯の割合は57.3%から54.4%へ、三世帯世帯の割合は10.9%から3.6%へ、それぞれ減少している一方、単独世帯の割合は25.0%から35.6%へ増加しています。

■「労働力調査」(総務省)によると、全国では、共働き世帯数が増加しており、本県においても、「国勢調査」(総務省)によると、専業主婦世帯数が昭和55(1980)年以降減少しており、共働き世帯数は平成7(1995)年以降、減少傾向にありましたが、平成27(2015)年には増加しており、夫婦のいる一般世帯に占める割合は47.7%と全国(45.5%)に比べて高くなっています。

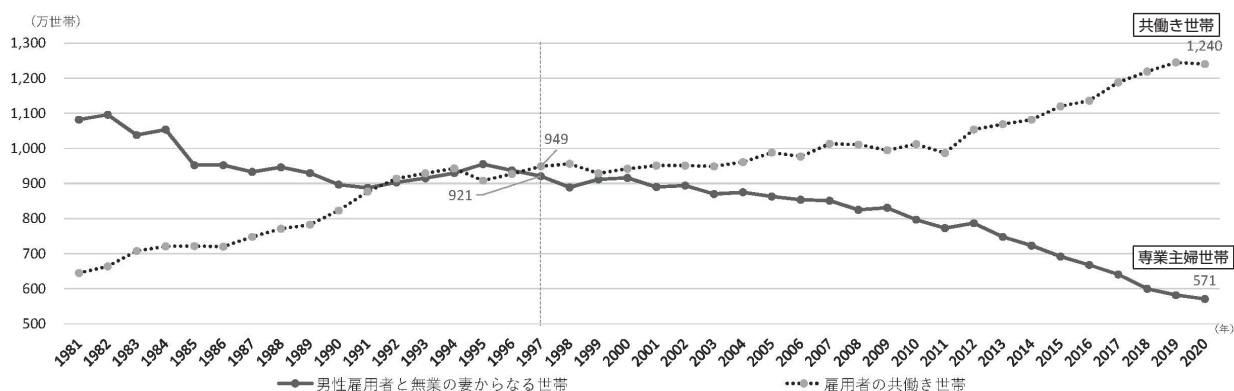
図表5 / 世帯構造の推移 (全国・岡山県)



※ひとり親家庭や、もう一方の親が調査時点において単身赴任等により不在の家庭など  
資料：「国勢調査」(総務省)

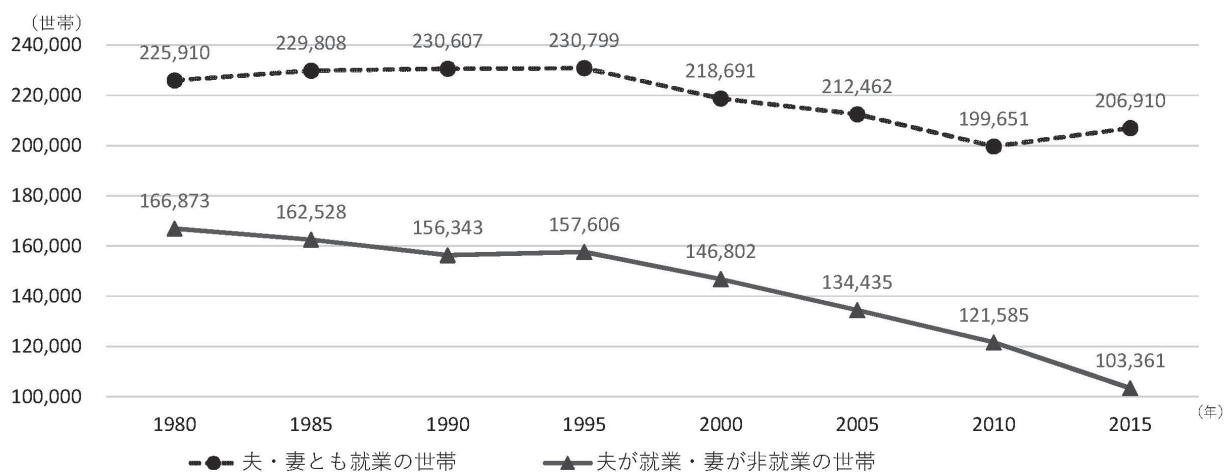


図表6 / 共働き等世帯数の推移(全国)



資料：「労働力調査特別調査」(昭和56(1981)年～平成13(2001)年 総務庁)  
「労働力調査」(平成14(2002)年～ 総務省)

図表7 / 共働き等世帯数の推移(岡山県)



資料：「国勢調査」(総務省)

## ④ 子ども・若者を取り巻く環境の変化

### (1) グローバル化の進展

■ グローバル化の加速により、世界の国々の相互影響と依存の度合いは急速に高まっています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により各国経済は大きく落ちこみましたが、世界経済の回復に伴い、人材の流動化、人材獲得競争など国際競争が激化していくことが予想されます。

■ グローバル化が進んだ社会では、直面する課題を自ら発見し、解決できる能力が求められるとともに、国内外のさまざまな場で、外国語をためらうことなく使用し、言語や文化が異なる人と主体的に協働していくことが求められます。

## (2) Society5.0の到来

■ Society5.0\*の到来が予想されており、AI\*やロボットが代替できる単純労働を中心に、現存する多くの職業が影響を受け、創造性や協調性が必要な業務や非定型的な業務が仕事の中心になるとともに、AI、IoT\*、ビッグデータ\*といった情報技術等を基盤とした人材の重要性がより高まることが想定されます。

■ Society5.0の到来に向けて、情報を取捨選択し読み取る力や、進歩し続ける技術を使いこなす力などの情報活用能力を育成するとともに、他者と協働し、AIにはない人間の強みである表現力や創造力を発揮しながら、新たな価値を創造できる人材の育成が求められます。

※ **Society5.0**：国が科学技術基本計画（平成28(2016)年1月22日閣議決定）で提唱した、科学技術の進化による社会変革が、人々に豊かさをもたらす社会を指す。

※ **AI**：Artificial Intelligence（人工知能）の略称で、人間の脳が行っている知的な作業をコンピュータで模倣したソフトウェアやシステム

※ **IoT**：Internet of Things（物のインターネット）の略称で、コンピュータだけでなく、さまざまな物体をインターネットに接続したり相互に通信したりすることにより、自動制御や遠隔計測などを行うこと。

※ **ビッグデータ**：情報通信技術の進展により、生成・収集・蓄積等が可能・容易になる多種多様なデータのこと。

## (3) 新型コロナウイルス感染症による影響

■ 令和元(2019)年12月に中国湖北省武漢市で発生が報告された新型コロナウイルス感染症は、世界規模で拡大し、日本においても、国民の生命や生活のみならず、経済、社会、人の行動、意識、価値観など、その影響は多方面に及んでいます。

■ 新型コロナウイルス感染症は、子ども・若者を取り巻く環境にも変化をもたらしており、家庭生活や学校生活をはじめ、ひとり親家庭など社会的・経済的に恵まれない家庭や、若者の雇用環境等、幅広く影響を与えています。

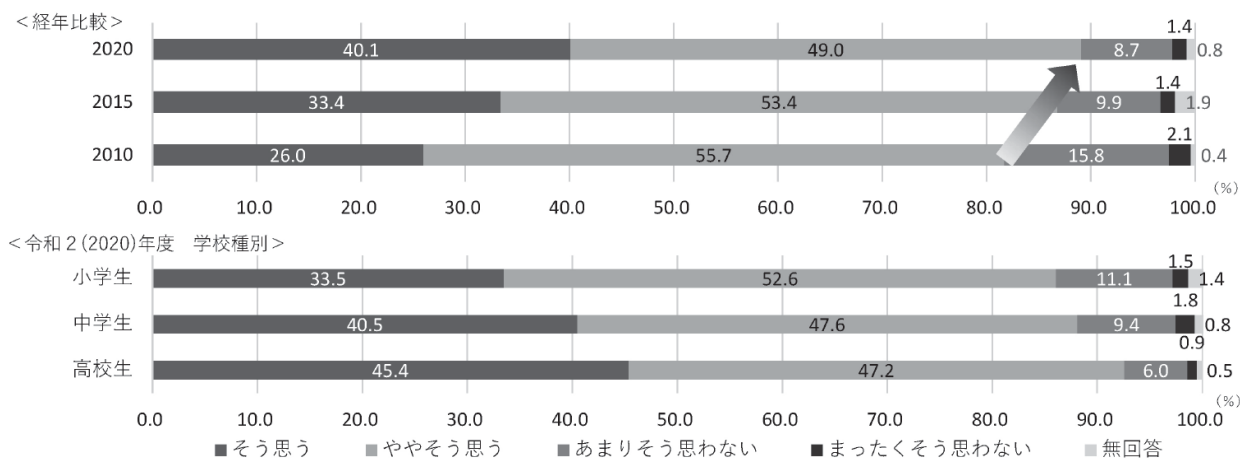
## ⑤ 子ども・若者自身の状況

### (1) 子どもたちの意識

■ 「青少年の意識等に関する調査」（令和2(2020)年度 岡山県）によると、「きまりやルールをきちんと守るほうだ」と回答した割合が増加しています。

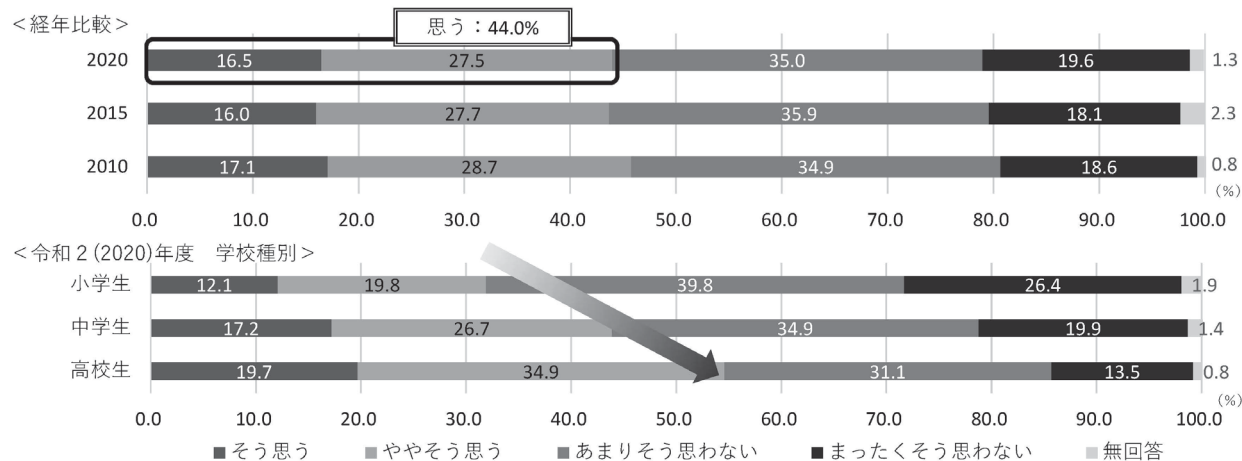
■ 一方で、「つまらないことですぐに落ち込む」、「自信を持ってやれることがない」と回答した割合が4割程度となっており、小・中・高校生と学校種が上がるにつれて、その割合が高くなっています。

図表8 / 自分自身の性格について(岡山県)：きまりやルールをきちんと守るほうだ



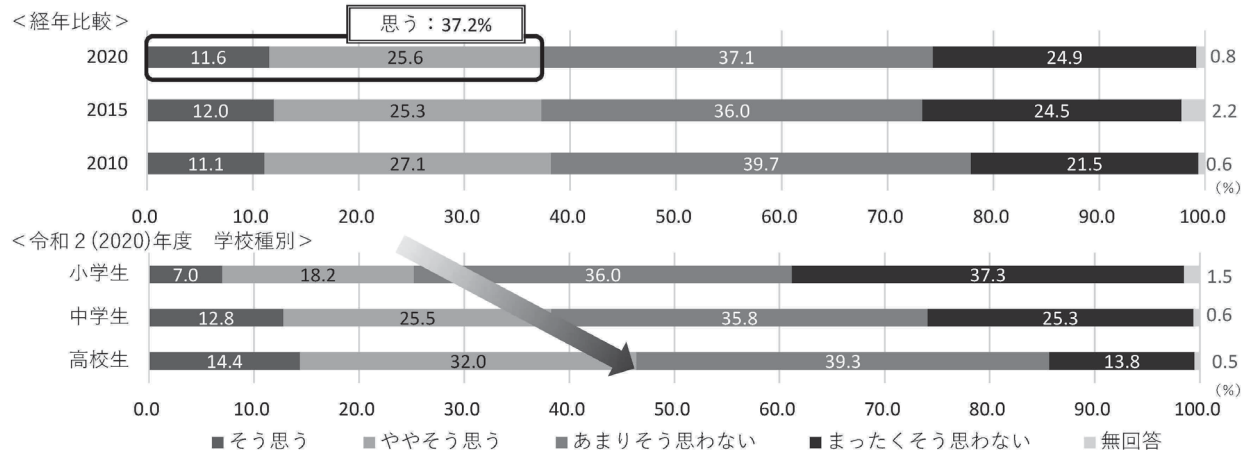
資料：「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

図表9 / 自分自身の性格について(岡山県)：つまらないことですぐに落ち込む



資料：「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

図表10 / 自分自身の性格について(岡山県)：自信を持ってやれることがない



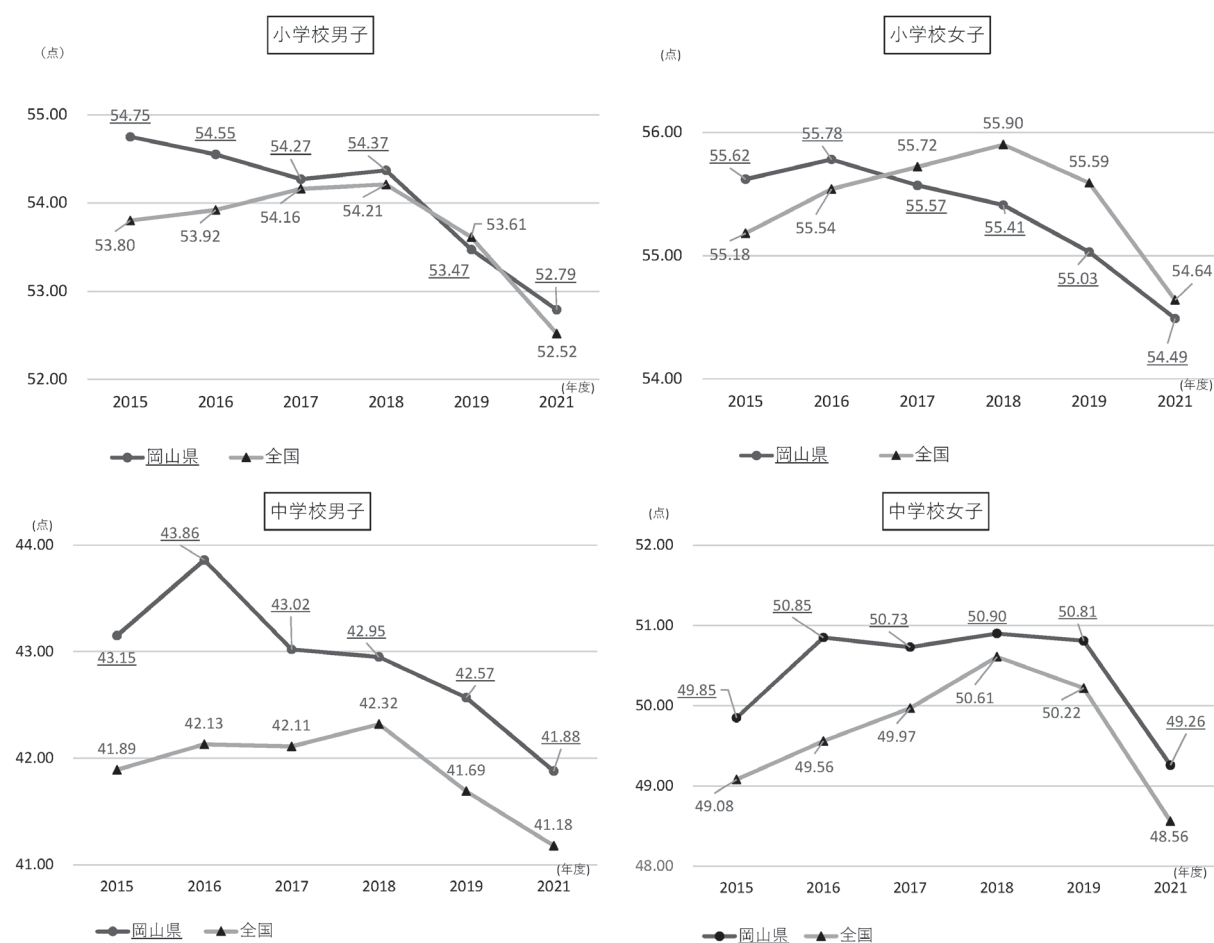
資料：「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

## (2)子どもたちの体力・運動能力

■「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(令和3(2021)年度 スポーツ庁)によると、本県の子どもの体力・運動能力は新型コロナウイルス感染症の影響も受け、低下傾向にあり、小学生男子及び中学生は全国平均より高くなっていますが、小学生女子は全国平均より低くなっています。

■「体育・保健体育の授業が楽しい」と感じている割合は、小学生は全国平均より低く、中学生は全国平均より高くなっています。また、「1週間の総運動時間数が60分未満」と回答した割合は、中学生女子を除き増加しており、小・中学生ともに全国平均とほぼ同等となっています。

図表11 / 体力合計点の年次推移 (全国・岡山県)

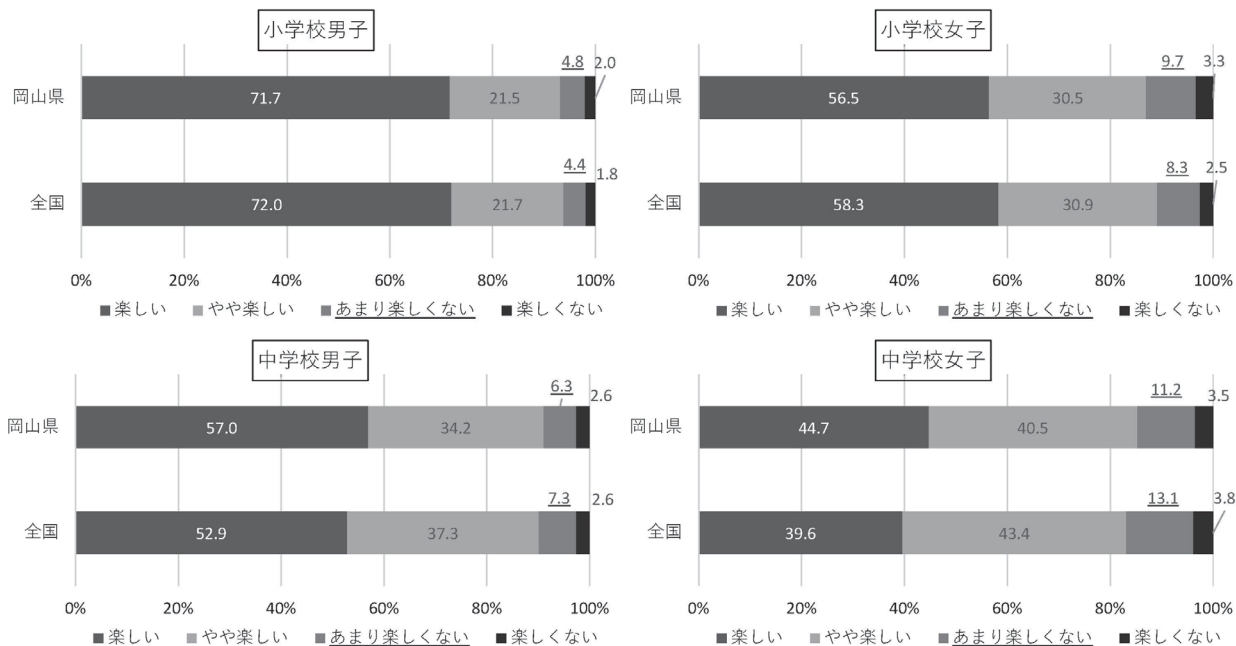


※体力合計点とは、8種目(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ボール投げ)の成績を1点から10点に得点化して総和した合計点

※新型コロナウイルス感染症の影響により令和2(2020)年度調査は中止されたため当該年度結果はありません。

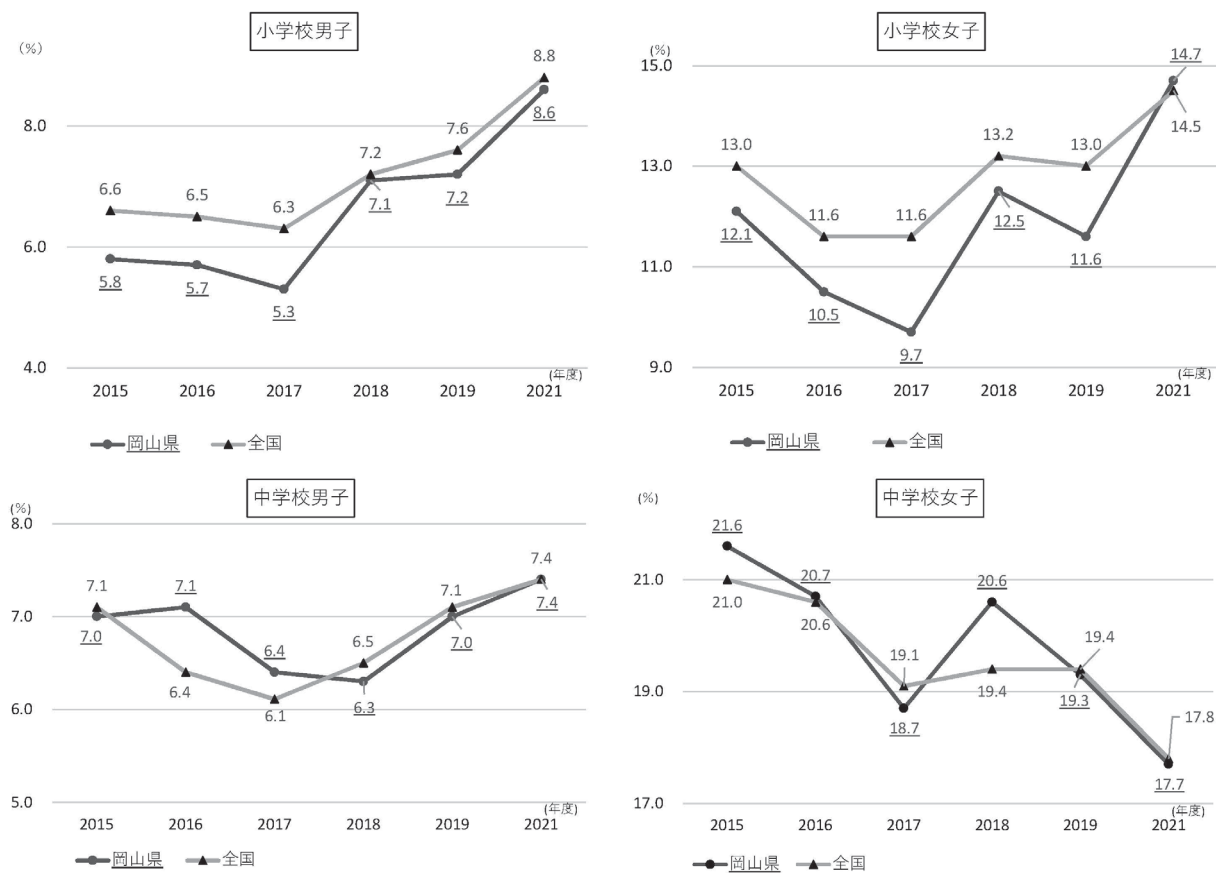
資料：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(スポーツ庁)

図表12 / 「体育・保健体育の授業は楽しいですか」の問いに対する回答割合 (全国・岡山県)



資料：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（令和3(2021)年度 スポーツ庁）

図表13 / 1週間の総運動時間数 60分未満の児童生徒の割合の推移 (全国・岡山県)



※新型コロナウイルス感染症の影響により令和2(2020)年度調査は中止されたため当該年度結果はありません。  
資料：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（スポーツ庁）

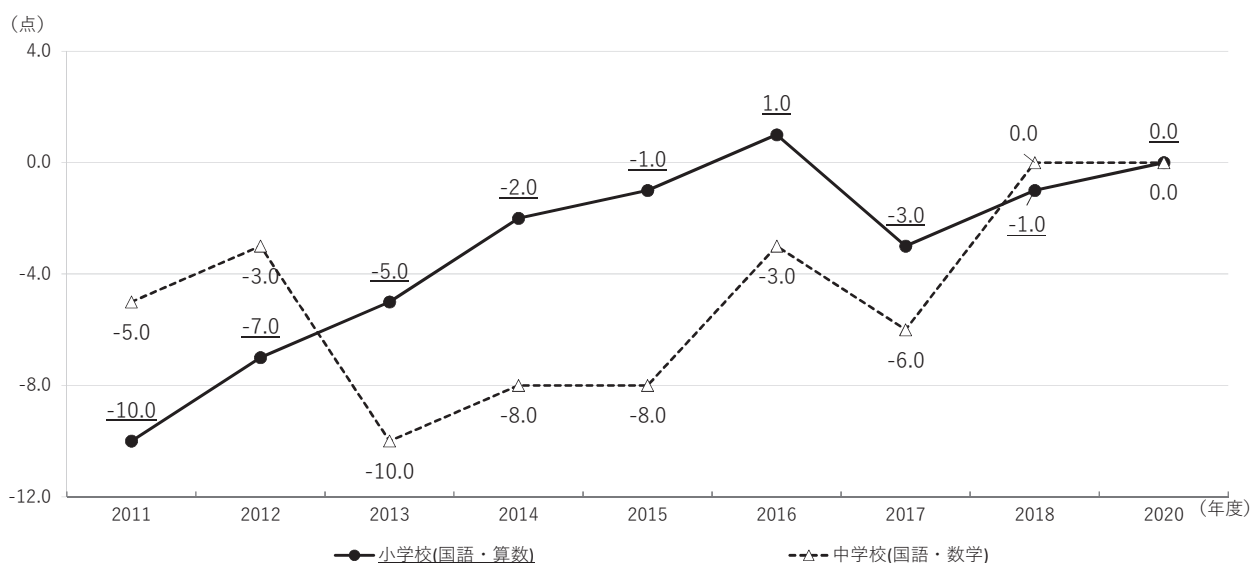
### (3)子どもたちの学力

■本県の子どもの学力については、「令和3年度全国学力・学習状況調査」(文部科学省、岡山県教育委員会)によると、小・中学校ともに平均正答率が全国平均と同等になっています。

■「授業以外で平日1時間以上学習する児童生徒の割合」については、前回の調査結果と比較すると、中学校で増加しており、小学校では減少しましたが、全国平均を上回っています。

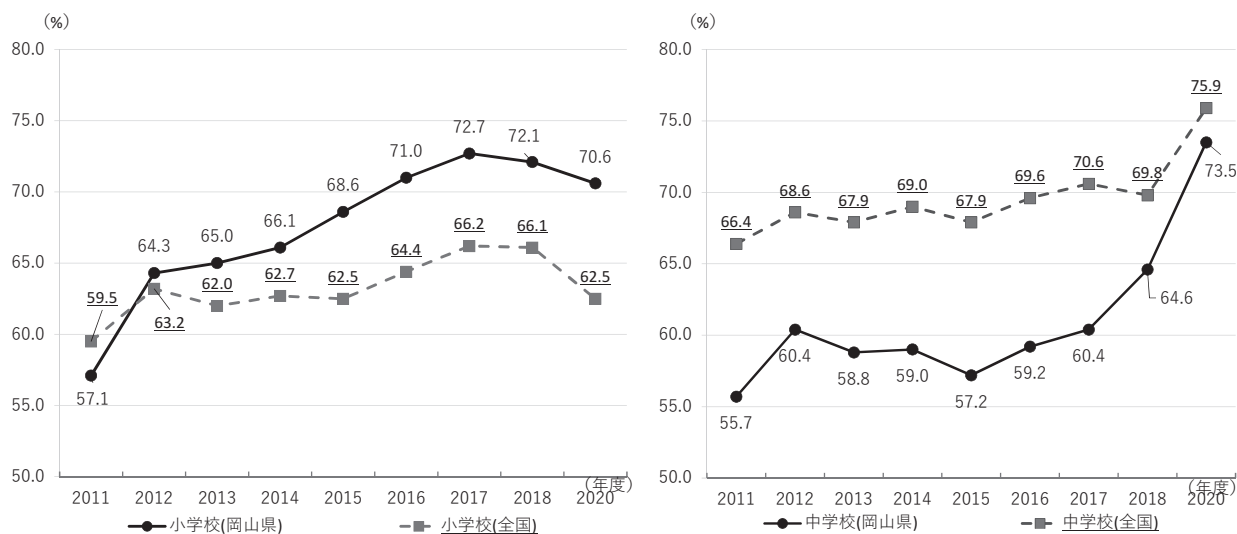
■新型コロナウイルス感染症の感染拡大で多くの学校が休業していた期間中、「勉強に不安を感じた」(当てはまる、どちらかといえば当てはまる)児童生徒の割合が小・中学校ともに過半数に達しており、今後、新型コロナウイルス感染症等により臨時休業を行う場合においても児童生徒の学びを保障することが求められています。

図表14 / 全国学力・学習状況調査における全国平均正答率との差の推移 (岡山県)



※新型コロナウイルス感染症の影響により令和2(2020)年度調査が中止となったため令和元(2019)年度結果はありません。  
資料：「全国学力・学習状況調査」(文部科学省、岡山県教育委員会)

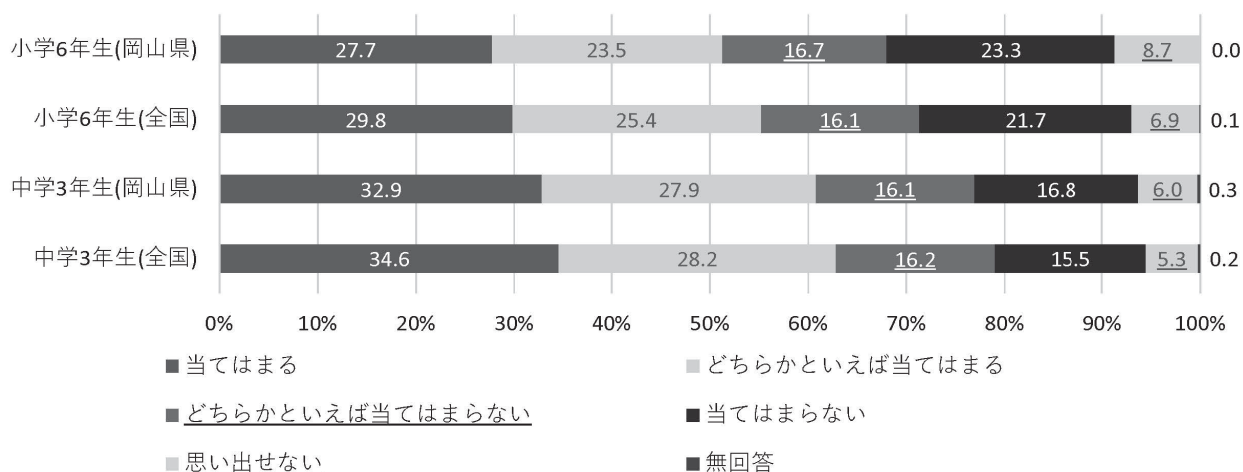
図表15 / 授業以外で平日1時間以上学習する児童生徒の割合の推移 (全国・岡山県)



※新型コロナウイルス感染症の影響により令和2(2020)年度調査が中止となったため令和元(2019)年度結果はありません。  
資料：「全国学力・学習状況調査」(文部科学省、岡山県教育委員会)



図表16 / 新型コロナウイルス感染症による臨時休業で勉強に不安を感じた児童生徒の割合 (全国・岡山県)



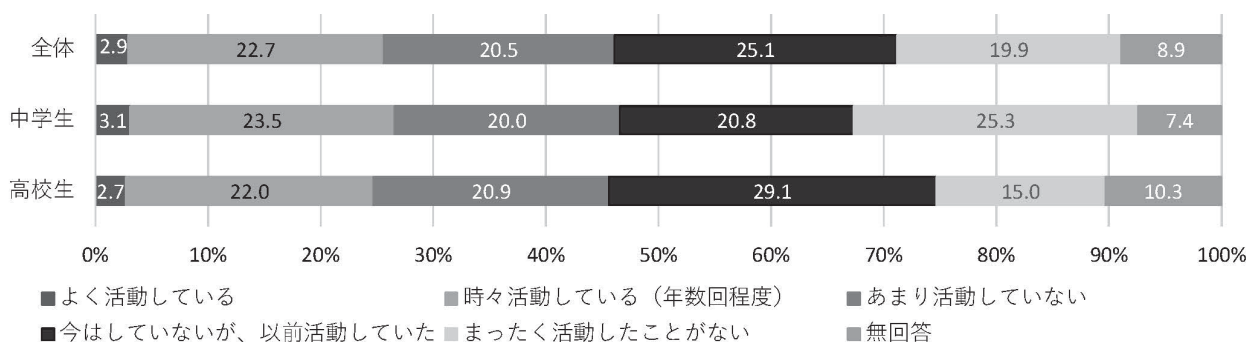
資料：「全国学力・学習状況調査」(令和2(2020)年度 文部科学省、岡山県教育委員会)

#### (4) ボランティア活動・自然体験

■「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)によると、ボランティア活動への参加頻度について、「よく活動している」、「時々活動している」と回答した中学生は26.6%、高校生は24.7%となっています。

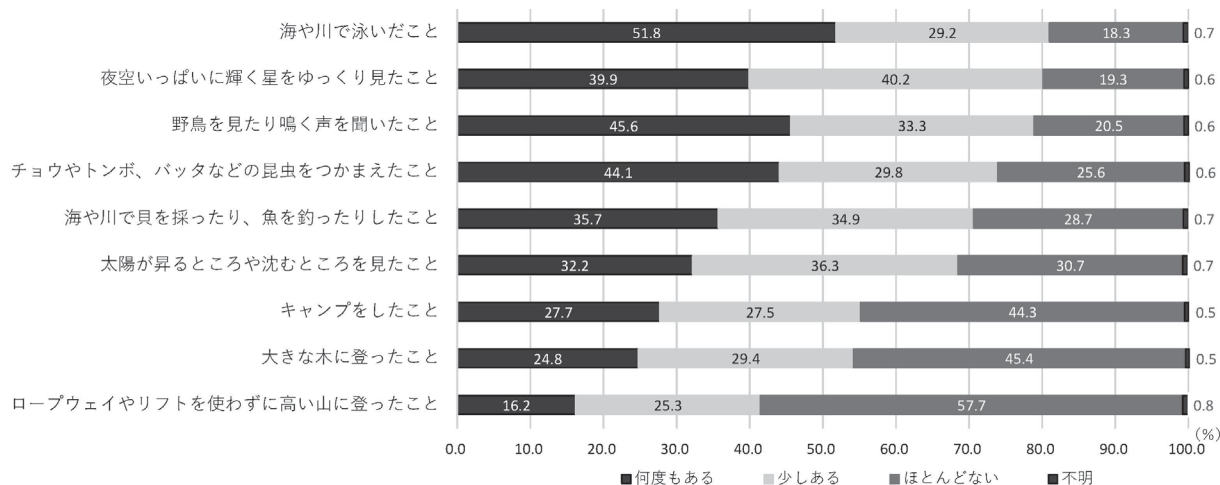
■「青少年の体験活動等に関する意識調査」(令和元(2019)年度 (独)国立青少年教育振興機構)によると、今まで経験したことがある自然体験として、「海や川で泳いだこと」、「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと」などが多くなっています。

図表17 / 青少年のボランティア活動への参加状況 (岡山県)



資料：「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

図表18 / 青少年の自然体験活動等の内容 (全国)



資料：「青少年の体験活動等に関する意識調査」(令和元(2019)年度 (独)国立青少年教育振興機構)

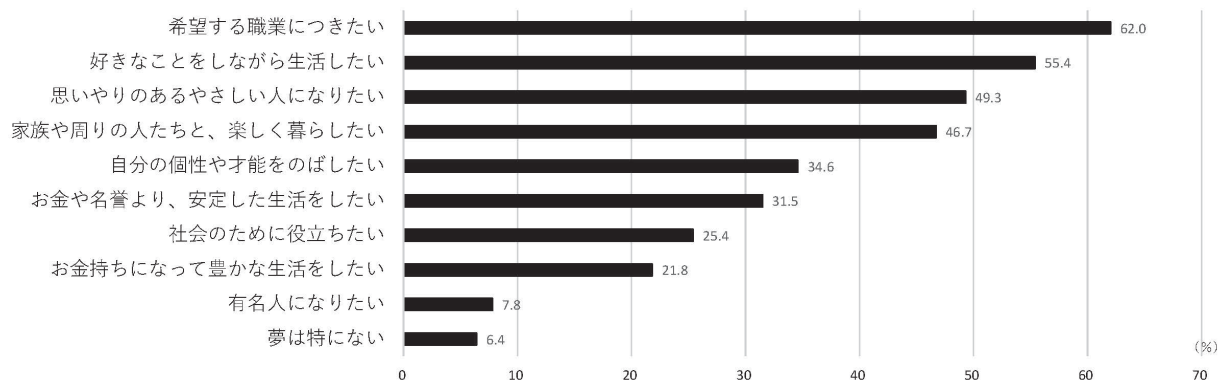
### (5) 将来の夢や目標

- ユニセフによる国際調査(令和2(2020)年)によると、我が国の子どもは、「身体的な健康」では38か国中1位であるのに対して、「精神的な幸福度」では37位に位置付けられるなど、身体的・精神的・社会的に良好な状態を意味する“Well-being<sup>\*</sup>”が低いとされています。
- 「18歳意識調査(社会や国に対する意識調査)」(令和元(2019)年 日本財団)によると、我が国の若者(17~19歳を対象)の「将来の夢を持っている」割合は、調査対象国<sup>\*</sup>の中で最も低い結果となっています。
- 本県においては、「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)によると、将来の夢について、「希望する職業につきたい」、「好きなことをしながら生活したい」と回答した割合が高くなっており、関心があることについても「将来の仕事のこと」と回答した割合が最も高くなっています。
- 一方で、「全国学力・学習状況調査」(文部科学省、岡山県教育委員会)によると、「将来の夢や目標を持っている児童生徒」の割合は、小学生では6割台、中学生では4割台にとどまっており、新型コロナウイルス感染症の影響も懸念されています。

※Well-being: 身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する概念

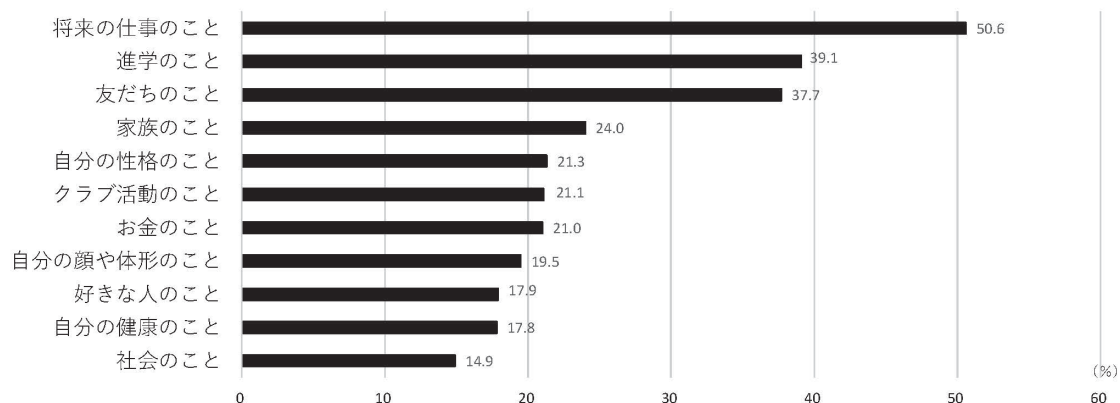
※調査対象国: 9か国(インド、インドネシア、韓国、ベトナム、中国、イギリス、アメリカ、ドイツ、日本)

図表19 / 小・中・高校生が持つ将来の夢 (岡山県)



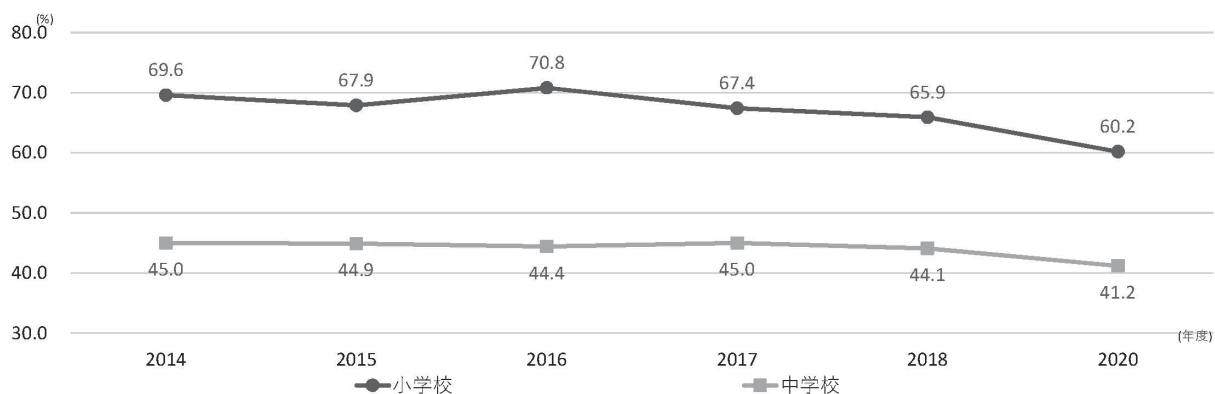
資料：「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

図表20 / 小・中・高校生が関心のあること (岡山県)



資料：「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

図表21 / 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合の推移 (岡山県)



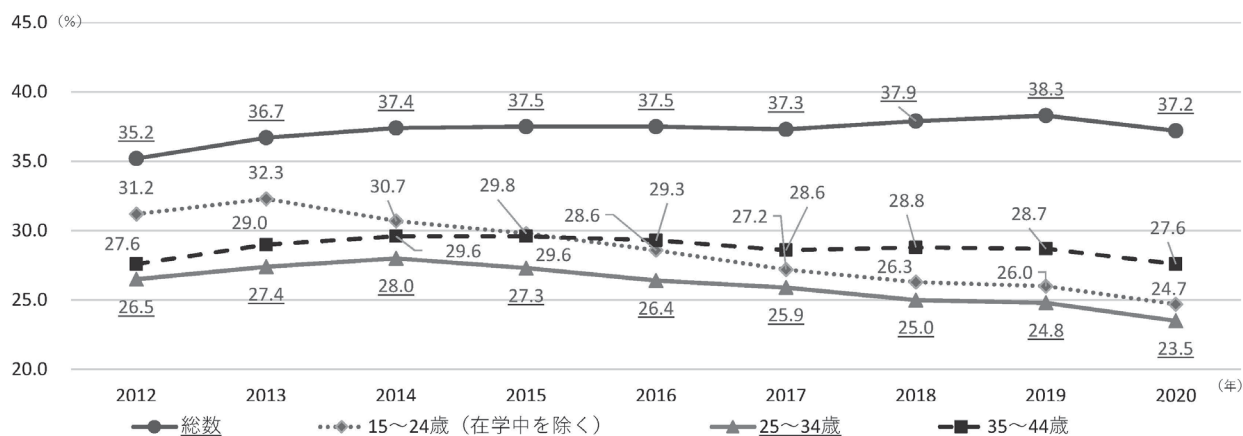
※新型コロナウイルス感染症の影響により令和2(2020)年度調査が中止となったため令和元(2019)年度結果はありません。

資料：「全国学力・学習状況調査」(文部科学省、岡山県教育委員会)

## (6)若者の就労状況

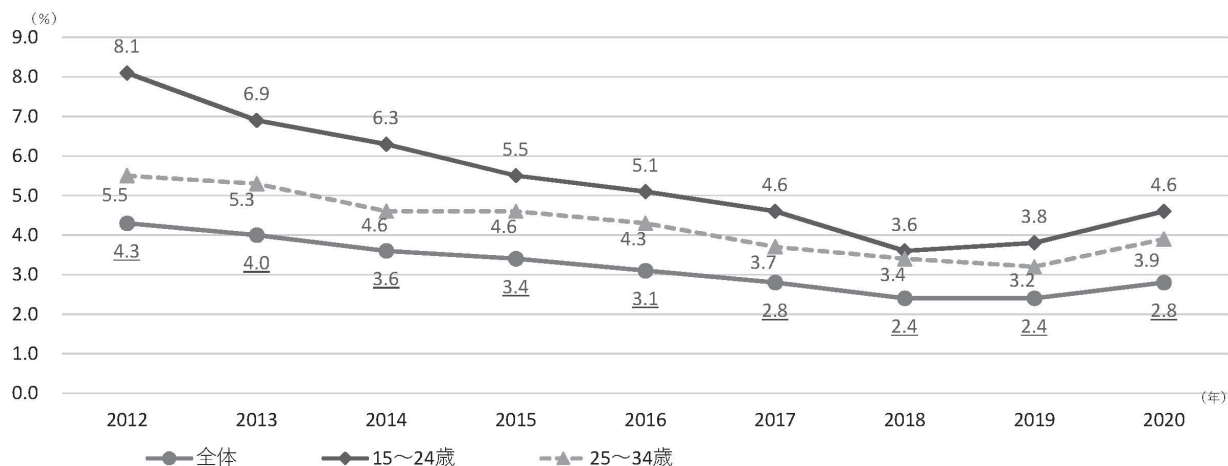
- 「労働力調査」(総務省)によると、全国の若者(15～24歳)の就労状況については、正規の職員・従業員以外の雇用者(在学者を除く)の比率は、低下傾向にあり、令和2(2020)年は24.7%となっています。
- 完全失業率は、低下傾向にありましたが、令和2(2020)年は上昇に転じ、4.6%となっています。また、「新規学卒者の離職状況」(厚生労働省)によると、新規学卒者の3年以内離職率は、高等学校卒業者は約40%、大学卒業者は約30%で横ばいの状況となっています。
- 「雇用労働統計」(岡山労働局)等によると、本県の令和3(2021)年3月31日現在の就職率は、高等学校新卒者では99.2%(99.4%(令和2(2020)年3月31日))、大学新卒者では94.9%(97.2%(令和2(2020)年3月31日))となっています。
- 就職率の低下とあわせて、本県の令和2(2020)年度高等学校新卒者の求人数及び就職希望者数が減少するなど、新型コロナウイルス感染症による雇用への影響が懸念されています。

図表22 / 非正規雇用者比率の推移(全国)



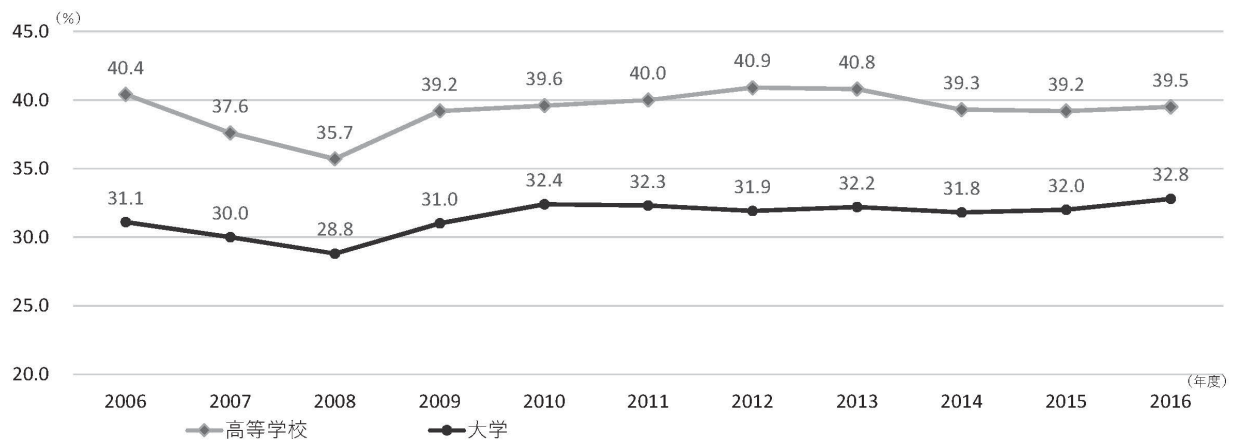
※非正規雇用者比率とは、役員を除く雇用者に占める非正規の職員・従業員の割合をいう。  
資料：「労働力調査」(総務省)

図表23 / 若年層(15～34歳)の完全失業率の推移(全国)



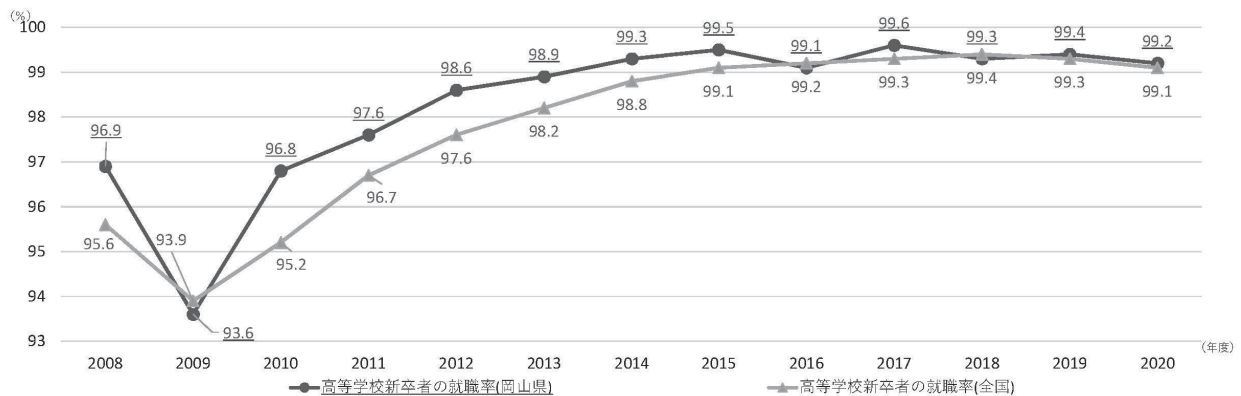
資料：「労働力調査」(総務省)

図表24 / 新規学卒者の3年以内離職率の推移 (全国)



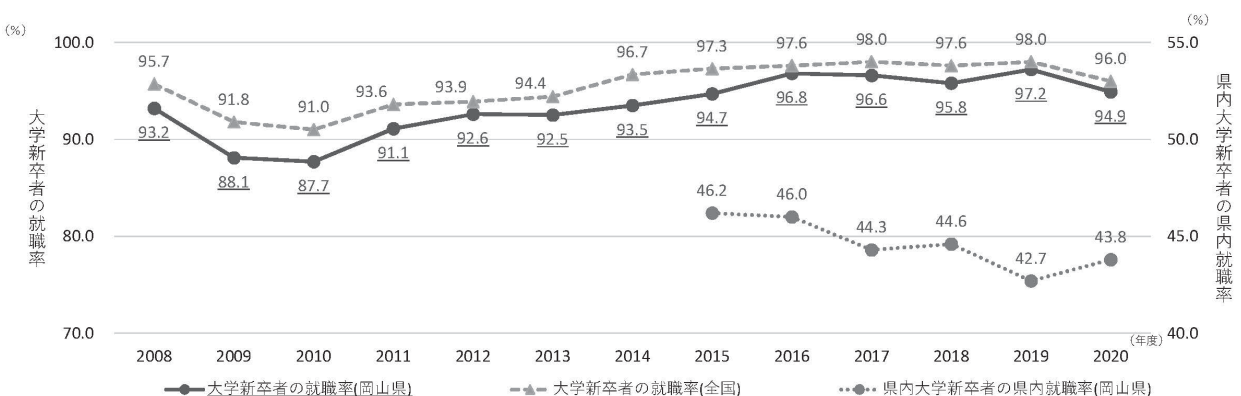
※グラフ横軸の年度は卒業年度を示す。  
資料：「新規学卒者の離職状況」(厚生労働省)

図表25 / 高等学校新卒者の就職率の推移 (全国・岡山県)



資料：「高校・中学新卒者のハローワーク求人に係る求人・求職・就職内定状況」(厚生労働省)、「雇用労働統計」(岡山労働局)

図表26 / 大学新卒者の就職率の推移 (全国・岡山県)



資料：「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職内定状況等調査」(厚生労働省、文部科学省)、「雇用労働統計」(岡山労働局)、岡山県

## 2

## さまざまな困難を有する子ども・若者

### ①ニート・ひきこもりの若者の状況

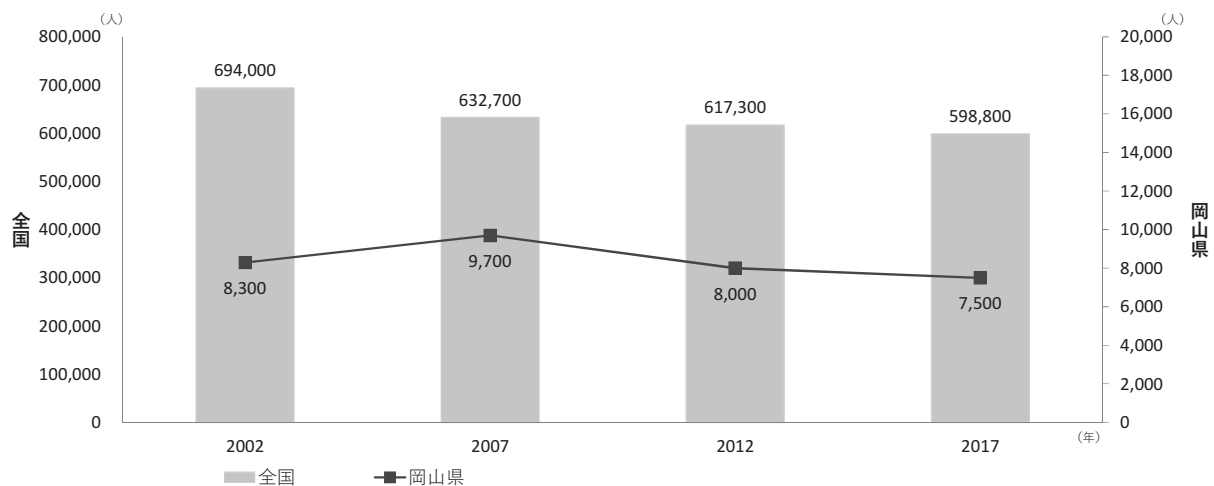
■若年無業者(15～34歳)、いわゆるニート\*は、「就業構造基本調査」(平成29(2017)年度 総務省)によると、全国で約59.9万人、本県には約7,500人存在すると推計されています。

■ひきこもり状態にある若者(15～39歳)の数は、「若者の生活に関する調査」(平成27(2015)年度 内閣府)によると、全国で約54.1万人、本県には約7,500人存在すると推計されています。

■新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的に当事者や保護者の交流、相談機会の減少など、孤立化が懸念されています。

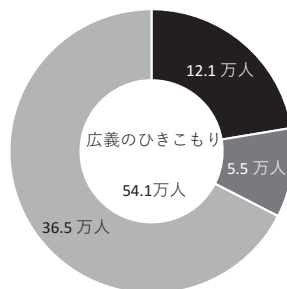
\*ニート: Not in Employment(雇用), Education(教育) or Training(訓練)の頭文字をとった造語で、15歳から34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者

図表27 / 若年無業者(ニート)数の推移(全国・岡山県)



※若年無業者とは、15～34歳の無業者で、家事も通学もしていない者のうち、求職活動をしていない者あるいは就業を希望していない者  
資料:「就業構造基本調査」(総務省)

図表28 / ひきこもり状態にある若者(15～39歳)の推計数(全国)



■ ふだんは家にはいるが、近所のコンビニなどには出かける } 狭義のひきこもり  
 ■ 自室からは出るが、家からは出ない又は自室からほとんど出ない } 17.6万人  
 ■ ふだんは家にはいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する → 準ひきこもり

資料:「若者の生活に関する調査」(平成27(2015)年度 内閣府)

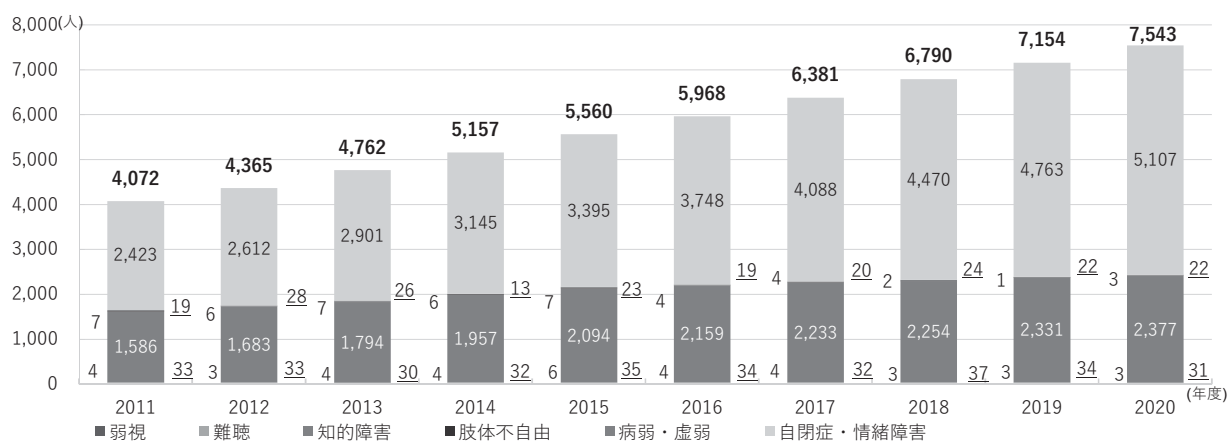


## ②障害のある子ども・若者

■「データが示す教育行政施策の推進状況」(岡山県教育委員会)によると、本県の特別支援学級に通う児童生徒数は年々増加しており、中でも、自閉症や情緒障害のある児童生徒が増加しています。

■障害の早期発見や療育の充実を図るとともに、学校現場において、発達障害を含むさまざまな障害種に対応した適切な教育を行うことが求められています。

図表29 / 特別支援学級の児童生徒数の推移(岡山県)



資料：「データが示す教育行政施策の推進状況」(岡山県教育委員会)

### ③少年非行の状況

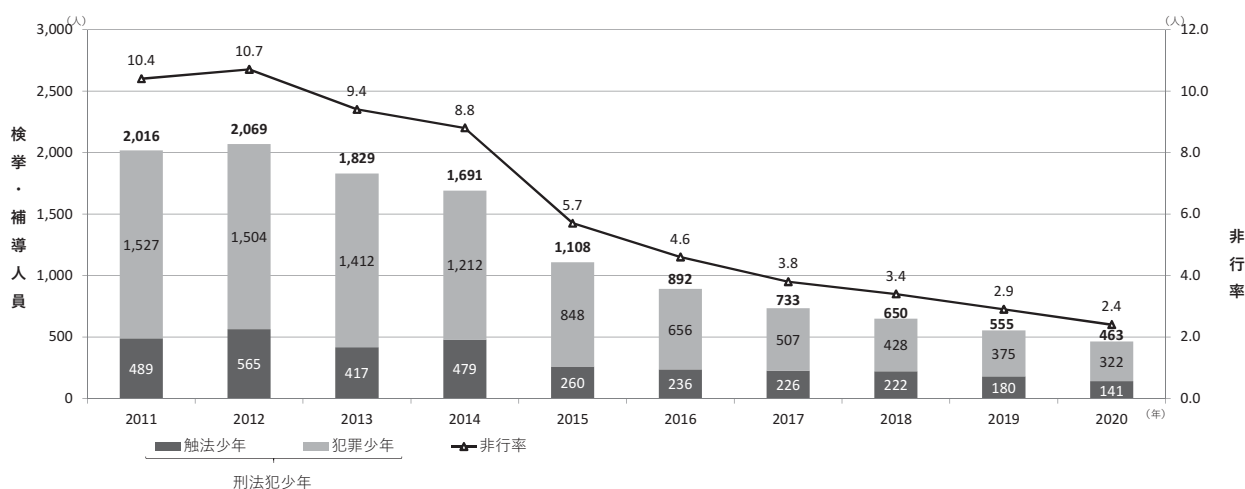
■刑法犯少年\* (20歳未満)の検挙・補導人員は、平成25(2013)年以降減少してきており、令和2(2020)年においては戦後最小の463人となっています。

■非行率\*についても改善傾向にあり、令和2(2020)年には過去最小の2.4となっていますが、全国と比較するとワースト上位となっており、犯罪少年(14歳以上20歳未満)の再犯者率も3割台で推移するなど、本県の少年非行情勢は依然として厳しい状況にあります。

\*刑法犯少年：刑法犯により検挙された犯罪少年(14歳以上20歳未満)及び補導された触法少年(14歳未満)

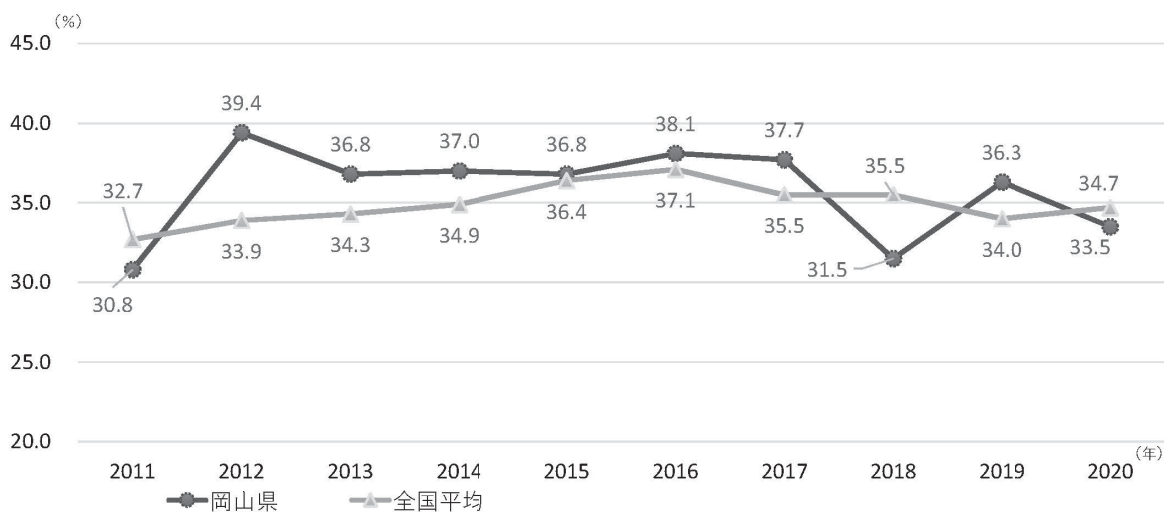
\*非行率：少年人口(10歳から19歳までの少年)1,000人あたりに占める刑法犯少年の割合

図表30 / 少年非行の状況(岡山県)



資料：岡山県警察本部

図表31 / 犯罪少年(14歳以上20歳未満)の再犯者率の推移(全国・岡山県)

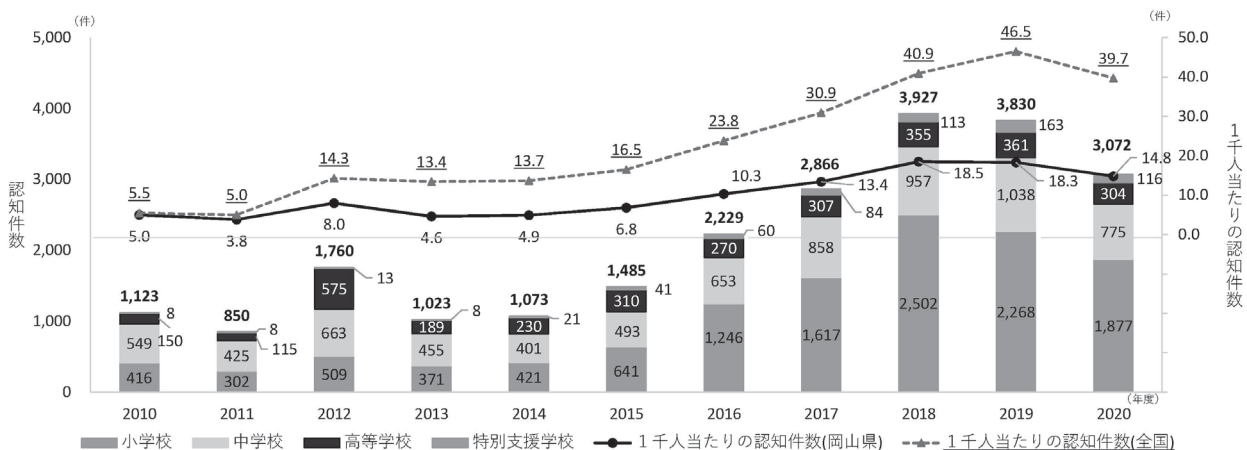


資料：岡山県警察本部

#### ④ いじめや暴力行為、不登校等の状況

- 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(文部科学省、岡山県教育委員会)によると、本県のいじめの認知件数(小・中・高・特別支援学校)については、初期段階での積極的な認知に努めたこともあり、増加傾向にありましたが、教職員のいじめを見逃さないという意識の高まりが、いじめにつながりそうな前段階で対応できていることなどから、令和元(2019)年度から減少に転じ、令和2(2020)年度も3,072件(1千人当たりの認知件数14.8件)と減少しています。
- 暴力行為の発生件数(小・中・高等学校)は、平成22(2010)年度をピークとして減少傾向にありましたが、平成28(2016)年度から増加しており、令和2(2020)年度は1,133件(1千人当たりの発生件数5.5件)と減少したものの、引き続き、1千人当たりの発生件数で全国平均を上回っています。
- 不登校児童生徒数(小・中・高等学校)については、近年増加傾向にあり、令和2(2020)年度は改善も見られたものの、依然として高い水準にあります。
- 高等学校における中途退学者数については、ゆるやかな減少傾向の中、近年横ばいの状況でしたが、令和2(2020)年度は633人(中途退学率1.1%)と減少しています。中途退学の主な理由としては、進路変更や学校生活・学業不適應などがあげられています。
- 新型コロナウイルス感染症が、子どもたちに影響を与えていることが懸念されることから、子どもたちの悩みやサインを見逃さないよう、子どもたちに寄り添いながら、より注意深く見守ることが重要となっています。

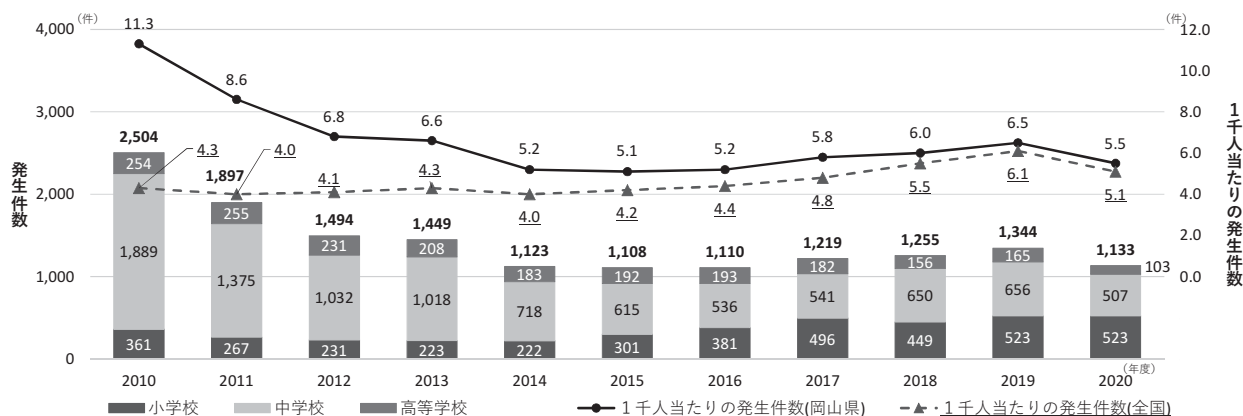
図表32 / いじめの認知件数及び1千人当たりの認知件数の推移(岡山県)



※国立・公立・私立計

資料：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(文部科学省、岡山県教育委員会)

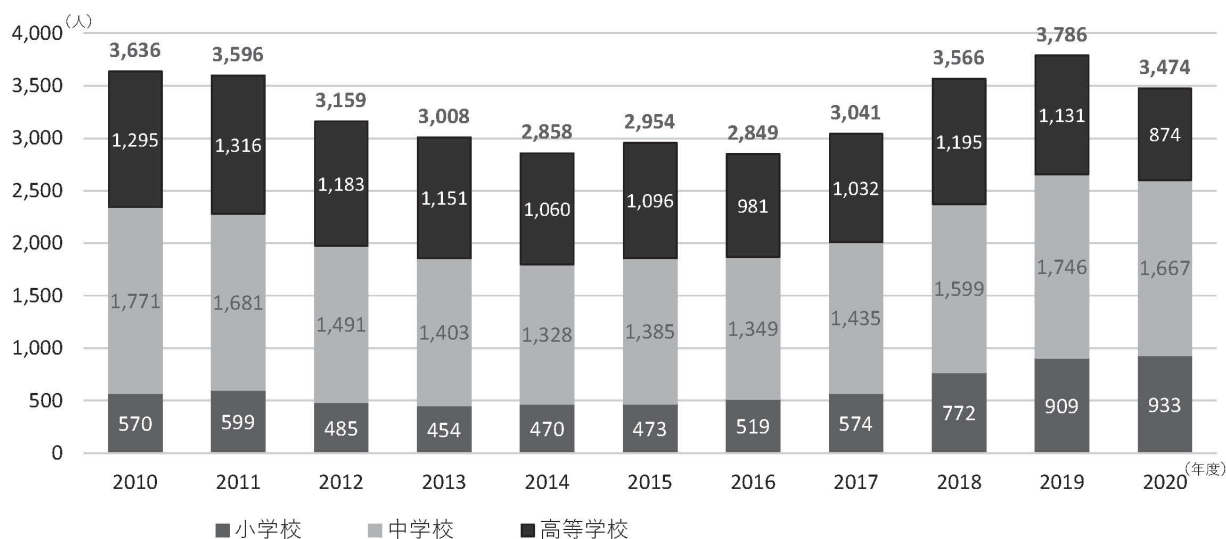
図表33 / 学校内外における暴力行為の発生件数及び1千人当たりの発生件数の推移 (岡山県)



※国立・公立・私立計

資料：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(文部科学省、岡山県教育委員会)

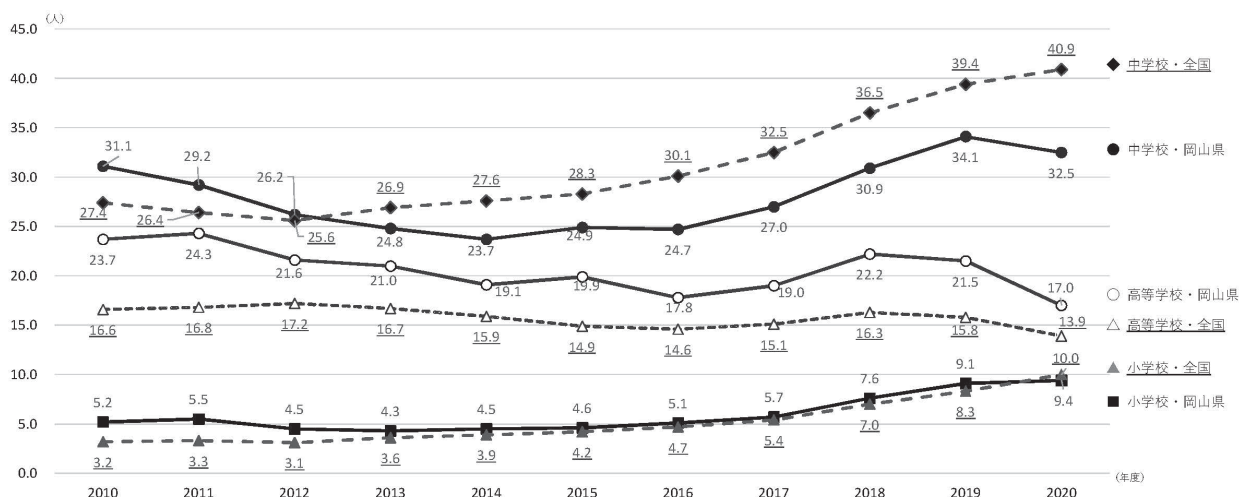
図表34 / 不登校児童生徒数の推移 (岡山県)



※国立・公立・私立計

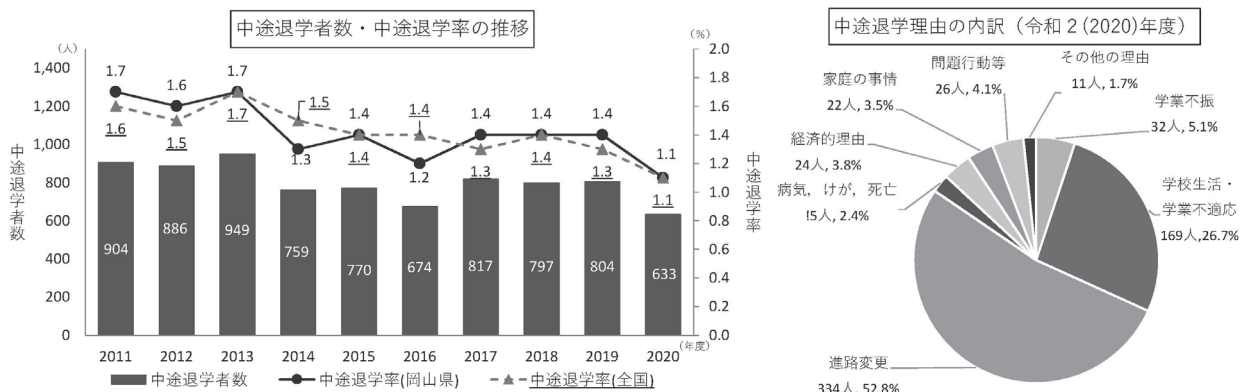
資料：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(文部科学省、岡山県教育委員会)

図表35 / 1千人当たりの不登校児童生徒数の推移 (全国・岡山県)



※国立・公立・私立計  
資料：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(文部科学省、岡山県教育委員会)

図表36 / 高等学校の中途退学者の状況 (岡山県)

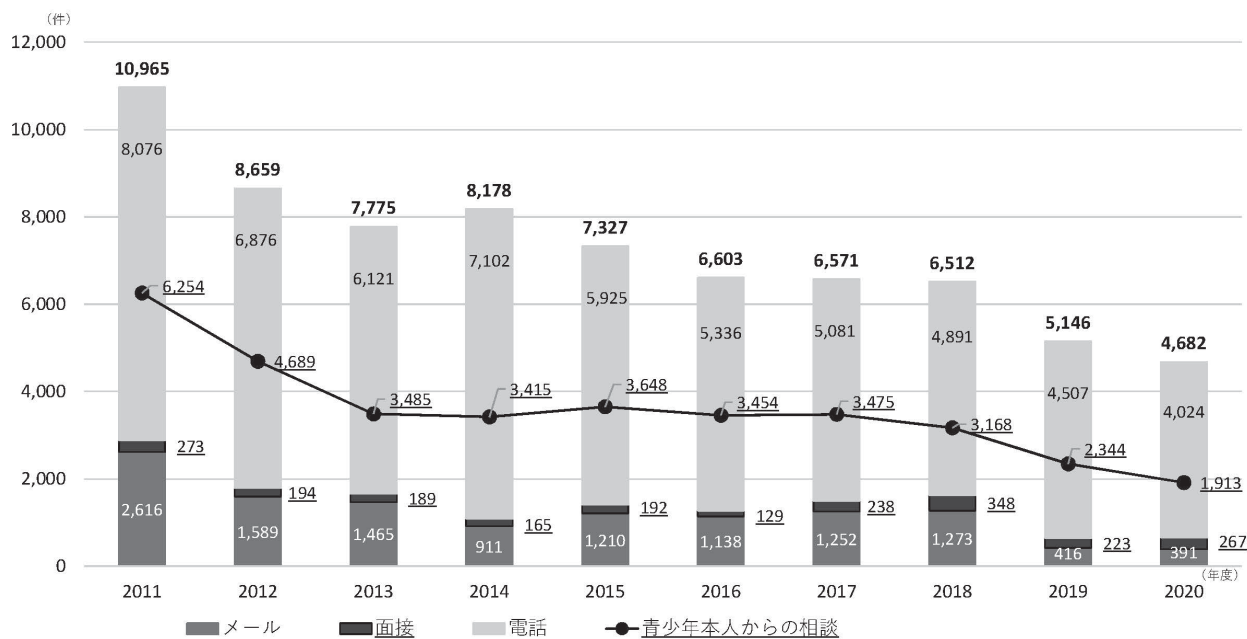


※公立・私立計  
資料：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(文部科学省、岡山県教育委員会)

### ⑤岡山県青少年総合相談センターにおける相談状況

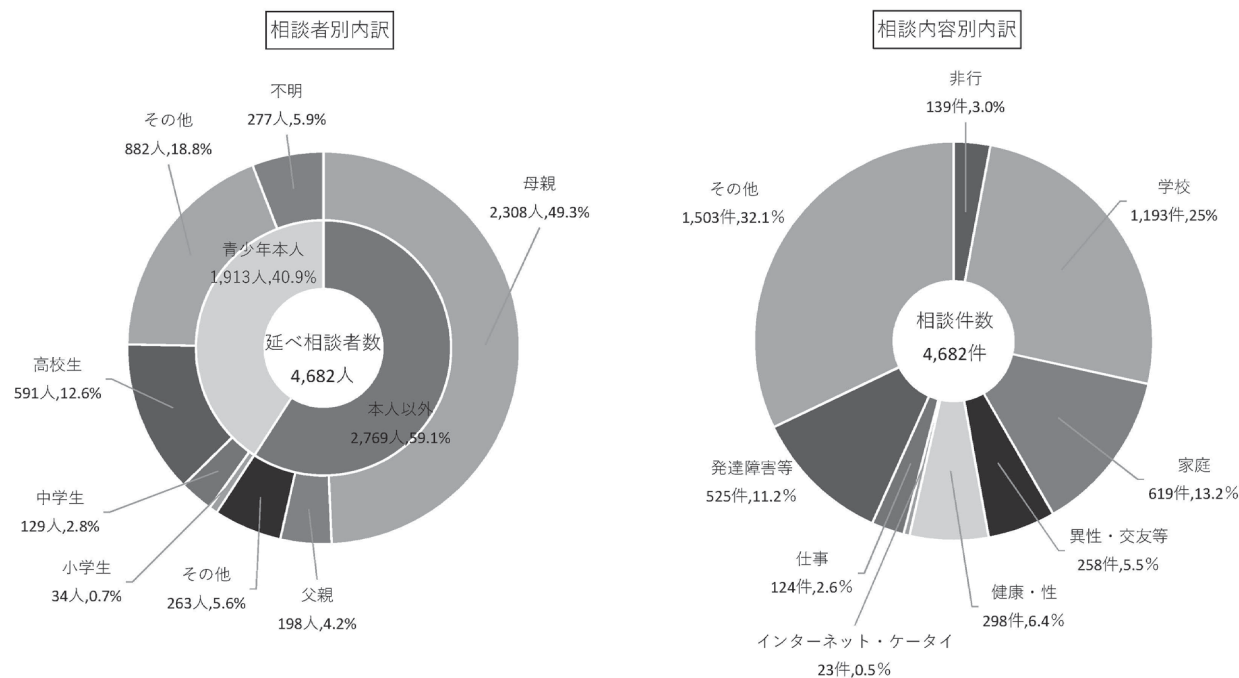
- 岡山県青少年総合相談センターでは、青少年や保護者等からの相談に対する助言や情報提供、適切な支援機関につなぐなどの支援を行っており、令和2(2020)年度においては4,682件の相談に対応しています。
- 青少年本人からの相談件数が減少していることから、SNSを活用した相談など青少年のコミュニケーションツールの変化に対応した相談体制が求められています。

図表37 / 岡山県青少年総合相談センターの相談状況の推移 (岡山県)



資料：岡山県青少年総合相談センター

図表38 / 岡山県青少年総合相談センターの相談状況の内訳 (令和2(2020)年度 岡山県)



資料：岡山県青少年総合相談センター



## ⑥子どもの貧困

■「国民生活基礎調査」(厚生労働省)によると、全国における平成30(2018)年の子どもの相対的貧困率\*は13.5%となっています。また、大人が1人の世帯の貧困率(48.1%)は、大人が2人以上の世帯の貧困率(10.7%)を大きく上回り、ひとり親家庭の平均所得や大学への進学率等も低くなっています。

■本県においては、「就学援助実施状況等調査」(文部科学省)によると、経済的理由により就学援助を受けている小・中学生の就学援助率は平成24(2012)年以降、微減傾向にあります。

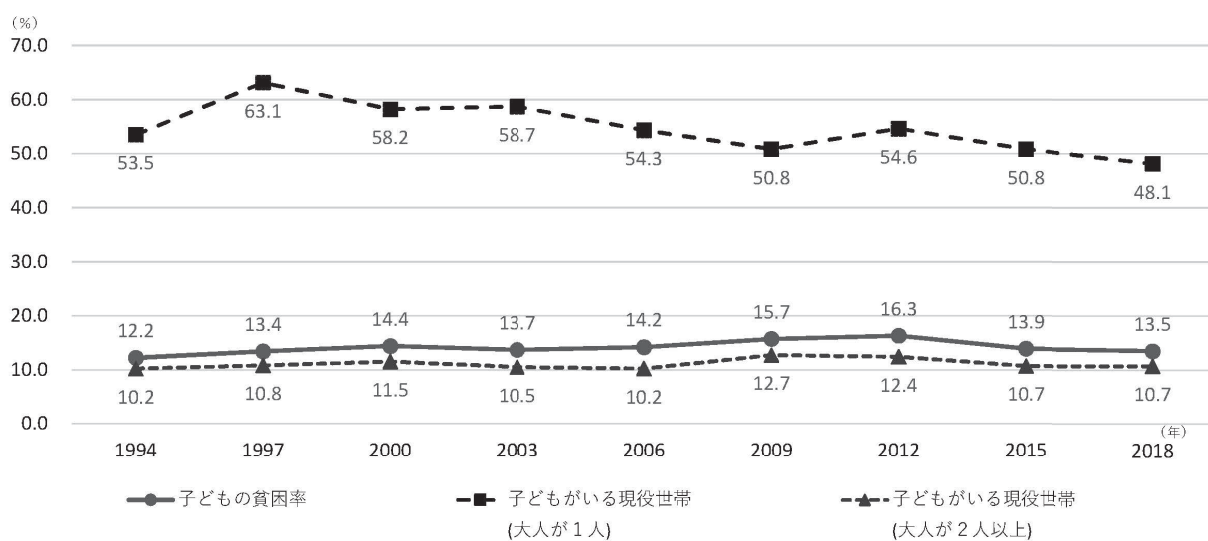
■「国勢調査」(総務省)によると、令和2(2020)年の本県のひとり親家庭の世帯数は10,871世帯であり、一般世帯に占めるひとり親家庭の比率は1.4%となっています。

■「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)によると、「経済的なゆとりがあるか」との問いに対して、小・中・高校生の保護者の約6割が「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」と回答しています。

■新型コロナウイルス感染症の影響による保護者の雇用状況の悪化等に伴い、子どもの貧困問題の深刻化が懸念されています。

※子どもの相対的貧困率：17歳以下の子ども全体に占める貧困線(等価可処分所得(世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得)の中央値の半分の額)に満たない17歳以下の子どもの割合

図表39 / 子どもの貧困率の年次推移(全国)



資料：「国民生活基礎調査」(厚生労働省)

図表40 / 子どものいる世帯の1世帯当たりの平均所得・子どもの進学率 (全国)

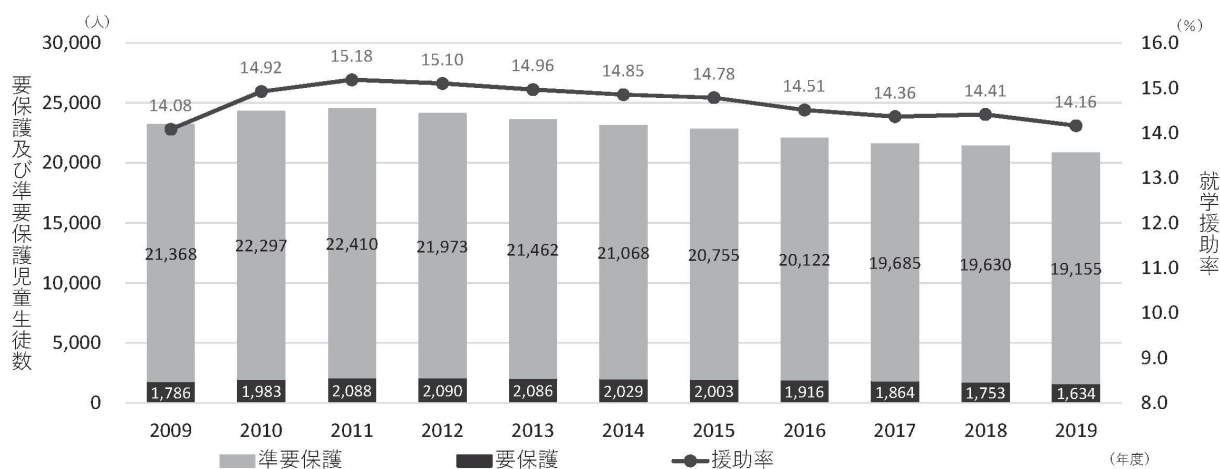
	(万円)
夫婦と未婚の子のみの世帯	753.8
ひとり親と未婚の子のみの世帯	369.4

資料：「国民生活基礎調査」(平成29(2017)年 厚生労働省)

	ひとり親家庭	全世帯
高校等への進学率	95.9%	99.0%
大学等への進学率	58.5%	73.0%

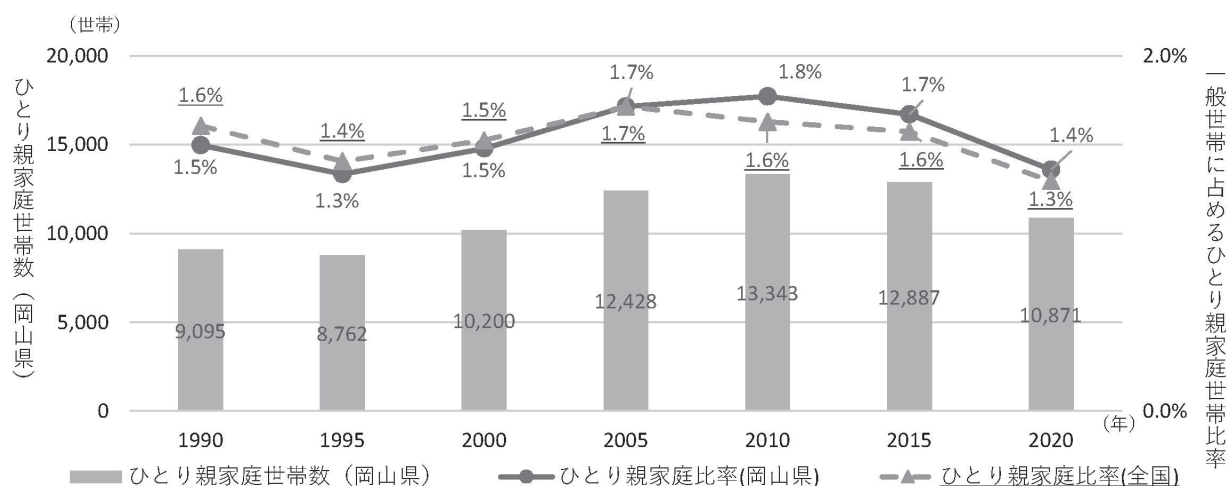
資料：「全国ひとり親家庭世帯等調査」(平成28(2016)年度 厚生労働省)  
「学校基本調査」(平成29(2017)年度 文部科学省)より算出

図表41 / 要保護及び準要保護児童生徒数の推移 (岡山県)



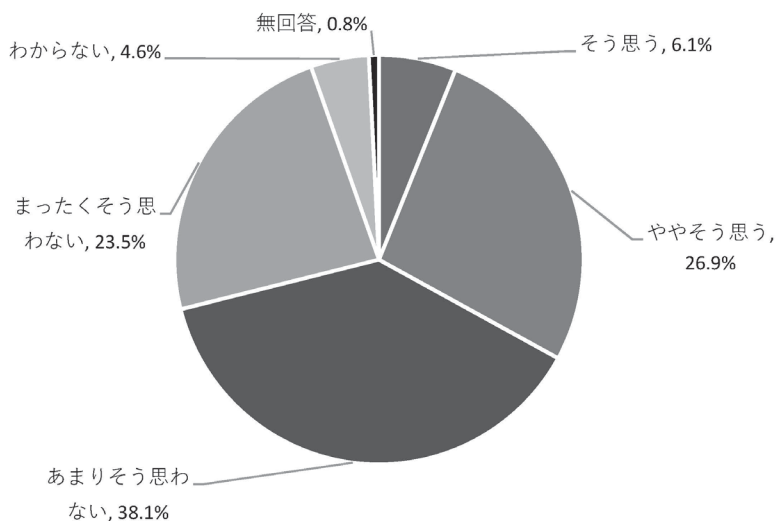
※・要保護児童生徒数とは、生活保護法に規定する要保護者の数をいう。  
 ・準要保護児童生徒数とは、要保護児童生徒に準ずるものとして、市町村教育委員会がそれぞれの基準に基づき認定した者の数をいう。  
 ・就学援助率とは、公立小・中学校児童生徒数に占める要保護及び準要保護児童生徒数の割合をいう。  
 資料：「就学援助実施状況等調査」(文部科学省)

図表42 / ひとり親家庭の世帯数及び一般世帯に占めるひとり親家庭比率の推移 (全国・岡山県)



※ひとり親家庭とは、未婚、死別又は離別の女親(男親)と、その未婚の20歳未満の子どものみから成る世帯(他の世帯員がないもの)をいう。  
 資料：「国勢調査」(総務省)

図表43 / 小・中・高校生の保護者への質問「あなたの家庭は、経済的なゆとりがあるか」に対する回答割合（岡山県）

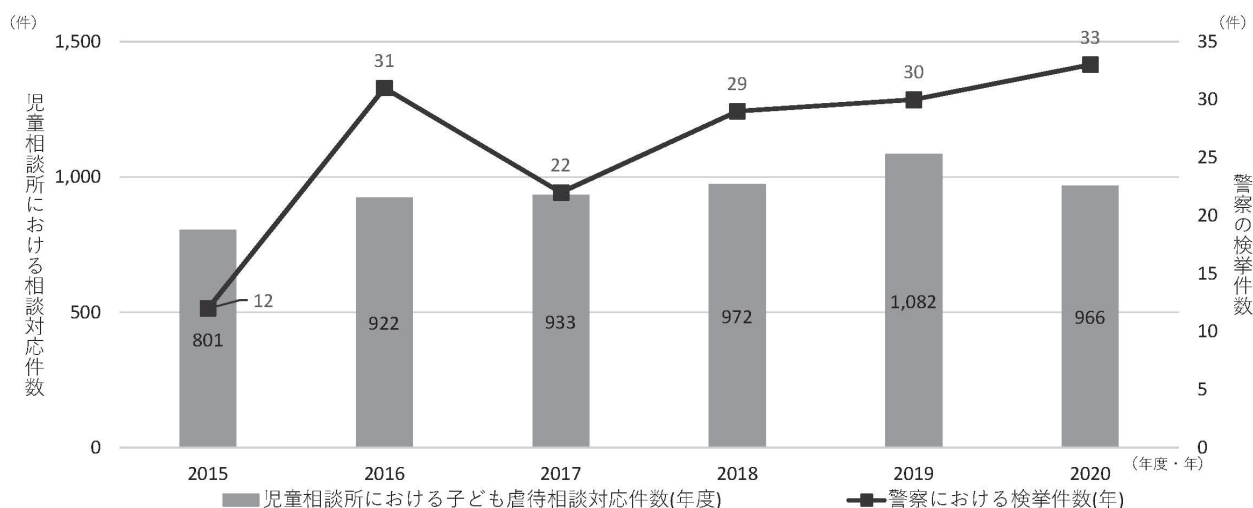


資料：「青少年の意識等に関する調査」（令和2(2020)年度 岡山県）

### ⑦子ども虐待

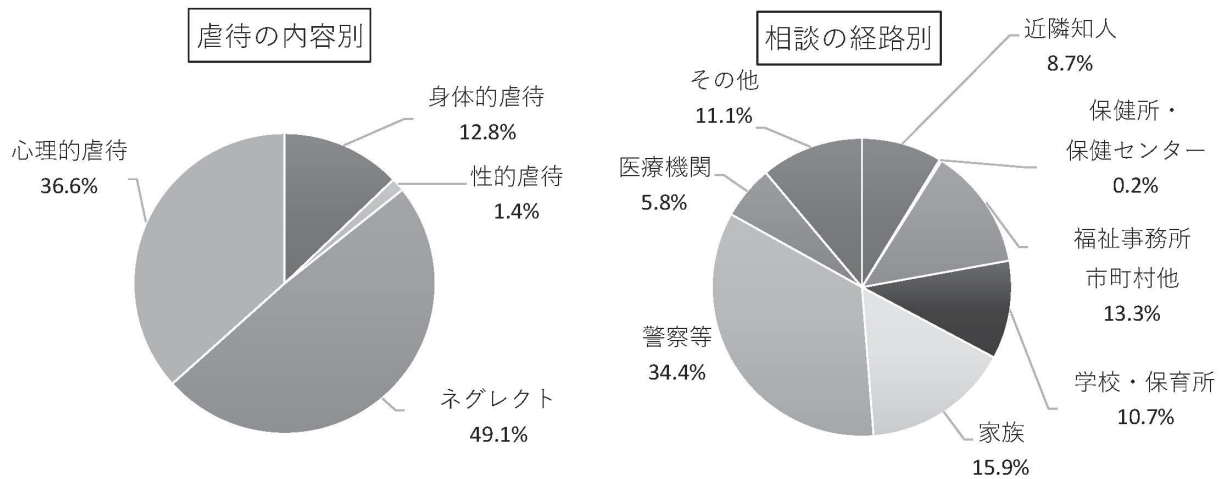
- 児童相談所における子どもの虐待に関する相談対応件数や警察における検挙件数が増加傾向にあり、全国的に重篤な事案が後を絶たない中、県内においても重大な事案が発生しており、深刻な社会問題となっています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、閉塞感や不安感が高まり、虐待の潜在化や深刻化も懸念されています。

図表44 / 児童相談所における子ども虐待相談対応件数、警察における検挙件数の推移（岡山県）



※令和2(2020)年度の児童相談所における相談対応件数は速報値であり、今後変動する可能性がある。  
資料：「福祉行政報告例」（厚生労働省）、岡山県警察本部

図表45 / 児童相談所における子ども虐待相談対応件数の内訳(岡山県)



※令和2(2020)年度の児童相談所における相談対応件数は速報値であり、今後変動する可能性がある。  
資料：「福祉行政報告例」(令和2(2020)年度 厚生労働省)

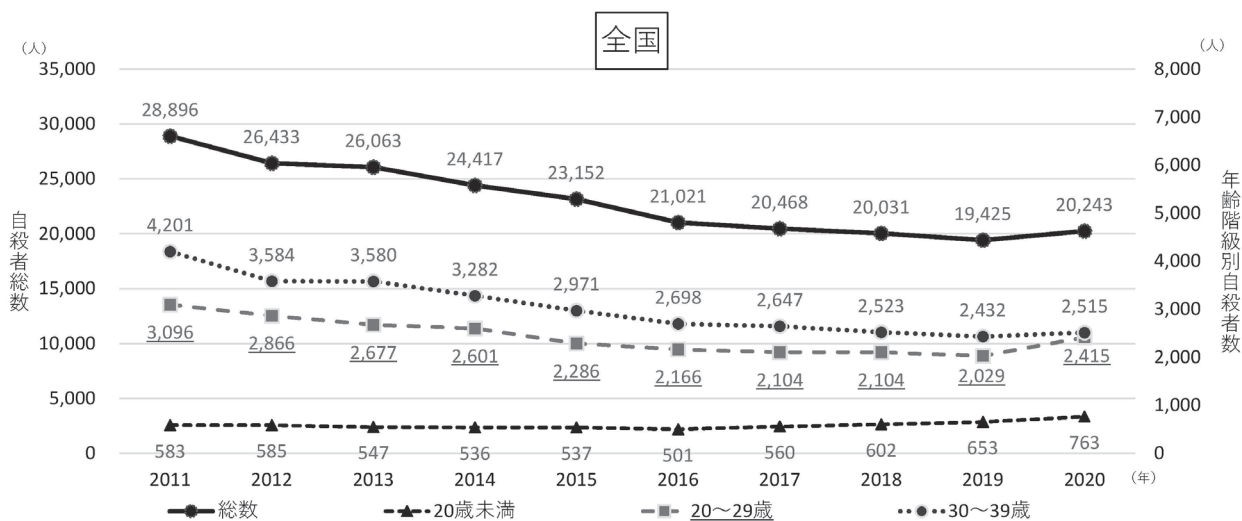
## ⑧多様な背景を持つ子ども・若者

### (1)自殺

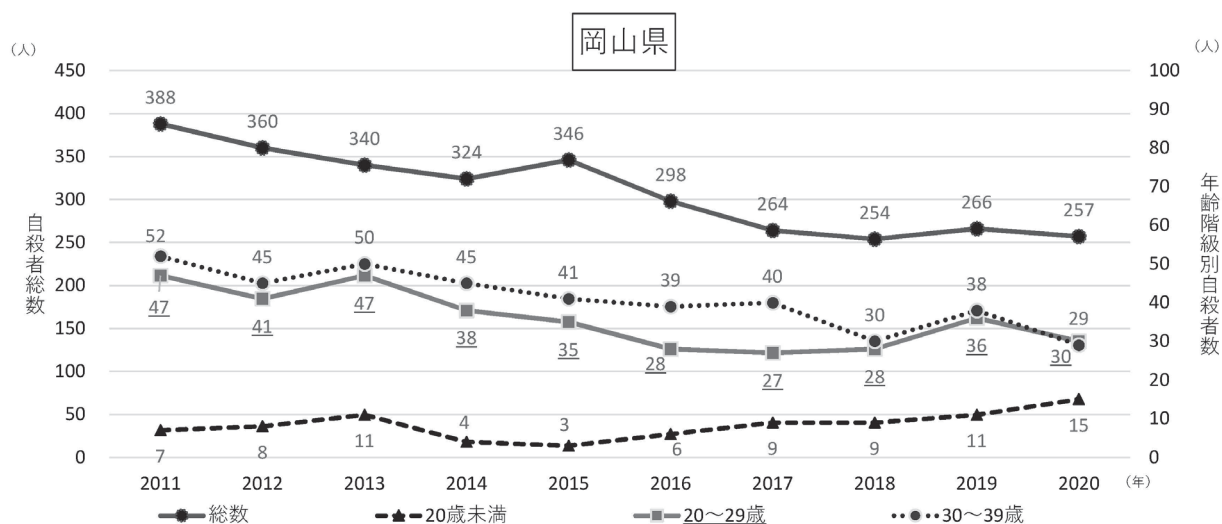
■本県及び全国の自殺者数は減少傾向にありましたが、令和2(2020)年の全国の自殺者数は、10代が763人(対前年比110人増)、20代が2,415人(対前年比386人増)となるなど、増加に転じています。

■本県においても、新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、人とのつながりが希薄になるなど、孤立化が進むことで不安を感じる方も増えていると考えられ、関係機関が連携して自殺対策に取り組む必要があります。

図表46 / 若者の自殺者数の状況 (全国・岡山県)



資料：「人口動態統計」(厚生労働省)



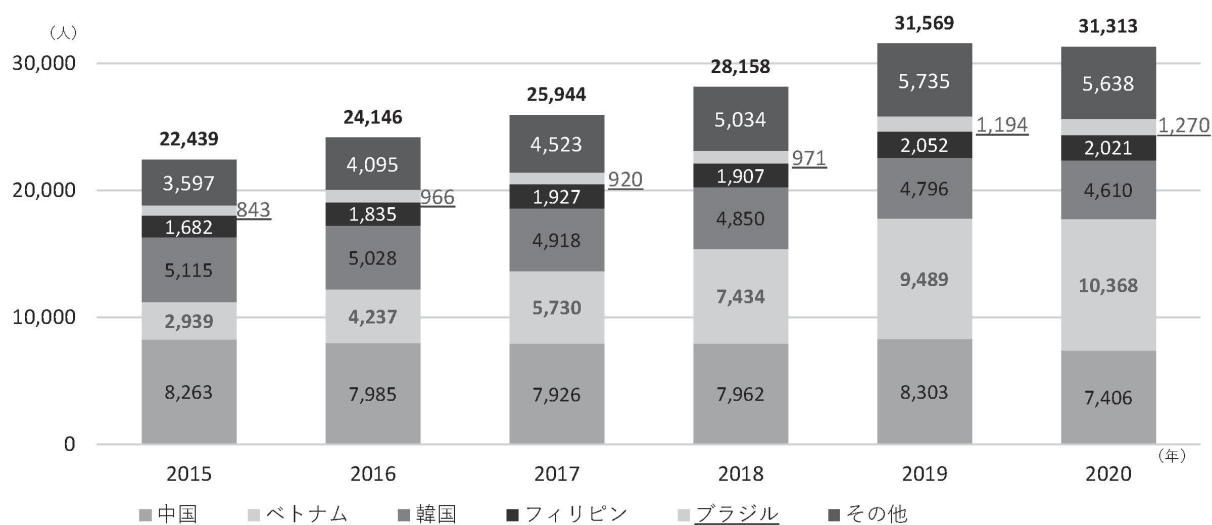
資料：「人口動態統計」(厚生労働省)

## (2)外国人

■「在留外国人統計」(法務省)によると、本県における在留外国人数は、令和2(2020)年12月末現在で31,313人であり、「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」(文部科学省)によると、日本語指導が必要な外国人の児童生徒は、平成30(2018)年度で100人を超えています。

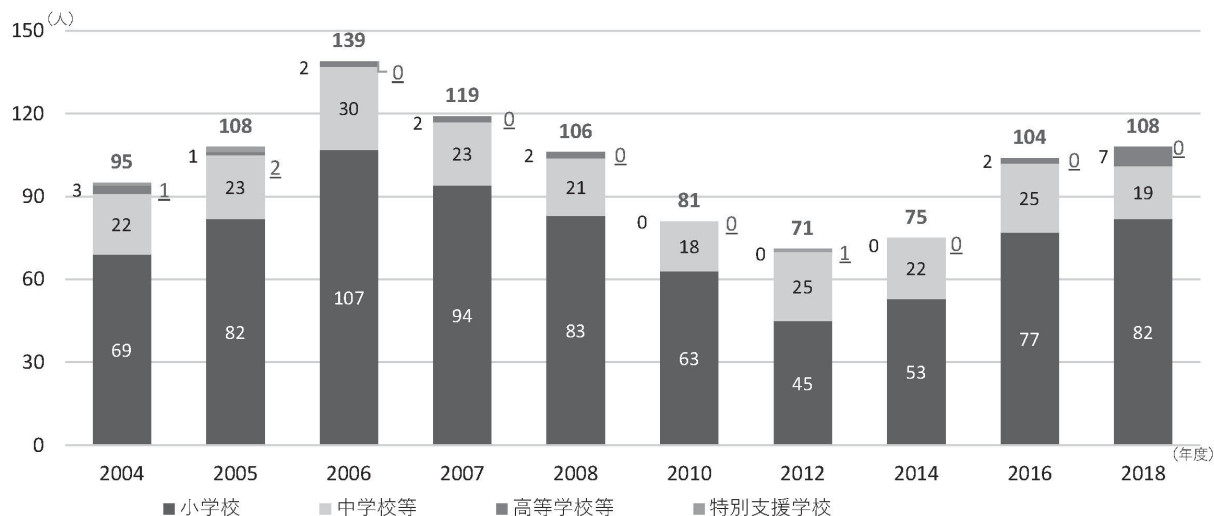
■「人権問題に関する県民意識調査報告書」(令和元(2019)年度 岡山県)によると、在住外国人の人権を守るために必要なこととして、「日本語学習機会の増大や在住外国人の子どもに対する教育の充実」や、「在住外国人に対する理解促進」、「相談体制の充実」などがあげられています。

図表47 / 在留外国人の推移 (岡山県)



資料：「在留外国人統計」(法務省)

図表48 / 日本語指導が必要な外国人の児童生徒数の推移 (岡山県)



資料：「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」(文部科学省)



### (3)多様な性

■民間企業の調査によると、いわゆるLGBT<sup>※</sup>などの性的マイノリティは、全国の20～59歳の人口の8.9%（約11人に1人）存在するとされ、「パートナーシップ制度<sup>※</sup>」等の取組が一部の自治体で始まるなど、性の多様性に対する認識も浸透しつつありますが、いまだ周囲の理解が十分ではないことから、偏見や差別に苦しんだり、日常生活を送る上で暮らしにくい状況に置かれることがあります。

※LGBT：女性同性愛者（Lesbian）、男性同性愛者（Gay）、両性愛者（Bisexual）、体と心の生が一致しないで性別に違和を覚える人々（Transgender）の頭文字をとった言葉で性的マイノリティの例示として用いられることが多い。

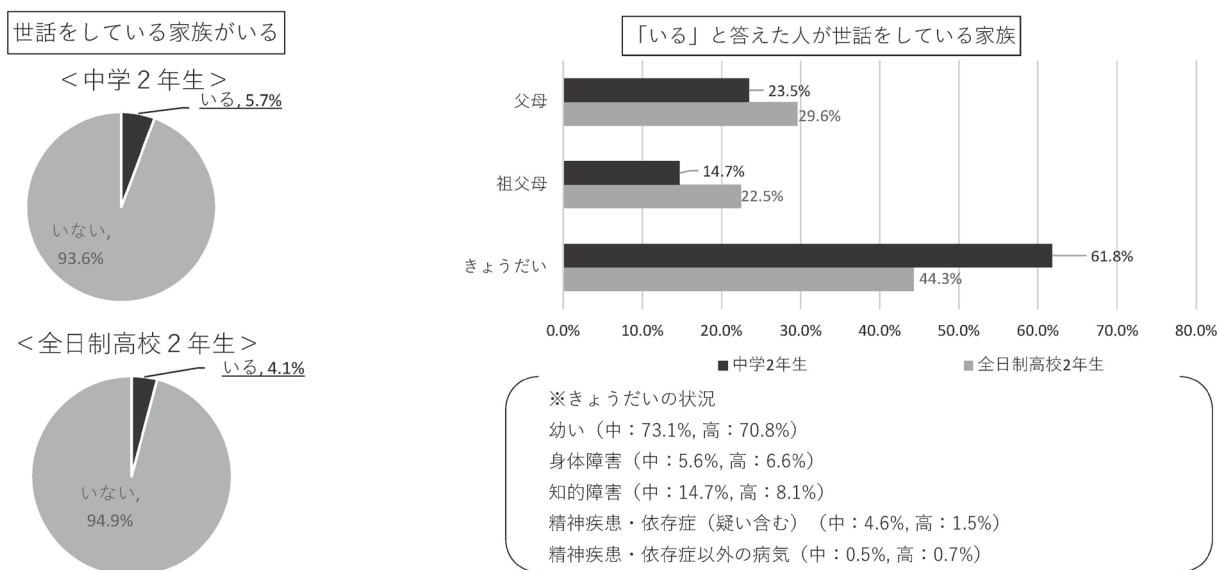
※パートナーシップ制度：同性の二者が婚姻と同等の関係にあることを自治体が証明する制度

### (4)ヤングケアラー<sup>※</sup>

■「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」（令和2（2020）年度 厚生労働省、文部科学省）によると、公立中学2年生の5.7%、公立全日制高校2年生の4.1%が世話をしている家族が「いる」と回答しており、子どもの成長や教育に影響がある可能性について指摘されています。

※ヤングケアラー：家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子ども。なお、18歳以上になってもケアを継続する場合や、18歳を超えてから新たにケアを担う場合もある。

図表49 / 世話をしている家族がいる児童生徒の割合（全国・公立学校）



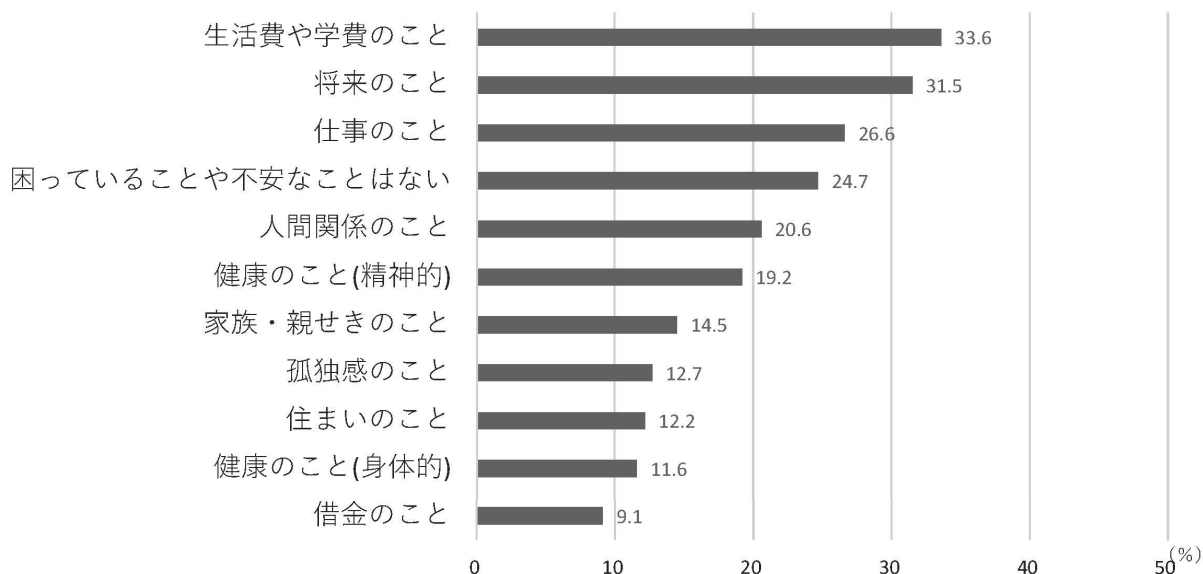
資料：「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」（令和2（2020）年度 厚生労働省、文部科学省）

## (5)社会的養護経験者\*

■「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査」(令和2(2020)年度 厚生労働省)によると、社会に出て自立的生活を形成・維持していく際に、家族等からの援助を受けにくいことなどもあり、さまざまな生活・就学・就労上の問題を抱えていることが指摘されています。

※社会的養護経験者：児童養護施設等への入所措置や里親委託等を解除された者

図表50 / 社会的養護経験者が現在の暮らしの中で、困っていることや不安なこと、心配なこと (全国)



資料：「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査」(令和2(2020)年度 厚生労働省)

## (6)生理の貧困問題

■生理用品を購入できない生理の貧困については、経済的な理由や家庭環境、知識の不足など、さまざまな事情がその背景に存在しており、女性の健康や社会生活に関わる問題として全国的に顕在化しています。

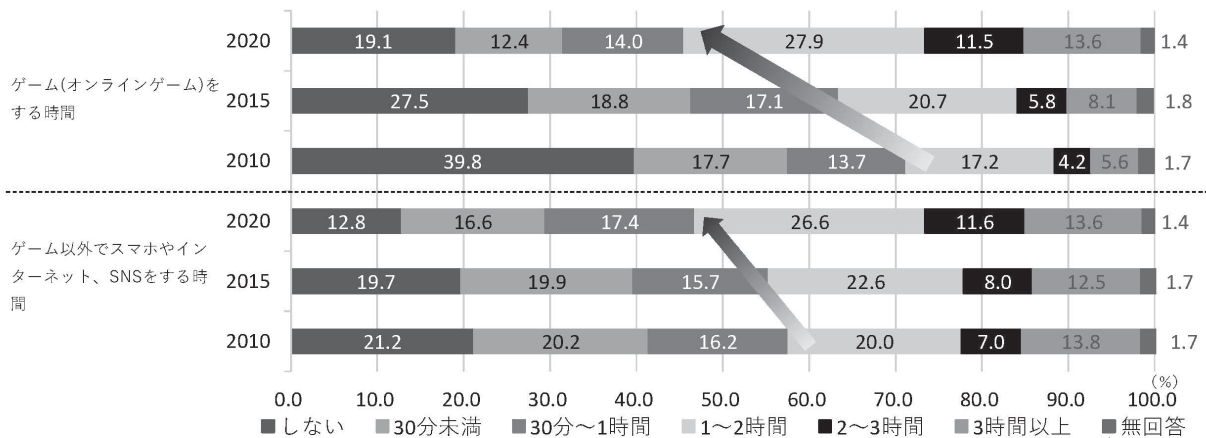
# 3

## 子ども・若者を取り巻く家庭・地域環境

### ①家庭環境

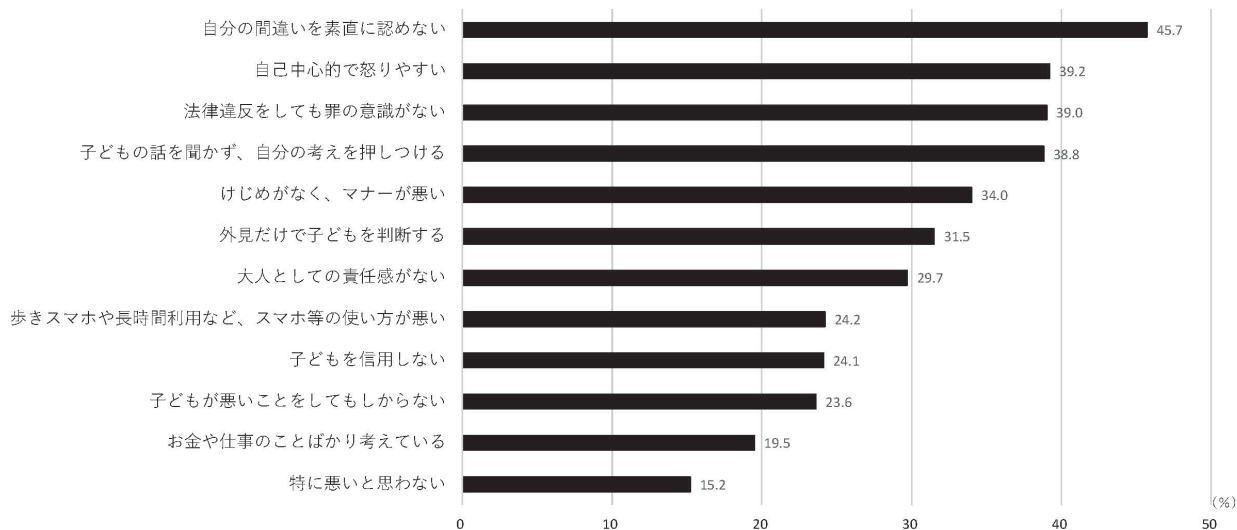
- 家庭は、子どもが食事やあいさつなどの基本的な生活習慣や、命の大切さ、他者への思いやり、自制心、自立心などを身につける上で大切な役割を担っています。
- 一方で、世帯構造の変化や地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変化しています。また、ゲームやスマートフォン等に費やす時間が増加し、子どもが自分の部屋で利用する割合も高まっているなど、家庭でのコミュニケーションが不足するおそれが懸念されています。
- 「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)によると、子どもたちから見て大人の悪いところとして、「自分の間違いを素直に認めない」、「自己中心的で怒りやすい」、「法律違反をしても罪の意識がない」、「子どもの話を聞かず、自分の考えを押しつける」などの回答が高くなっています。

図表51 / 児童生徒が平日にゲームやインターネット等で費やす時間(岡山県)



資料：「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

図表52 / 中・高校生から見た大人の悪いところ (岡山県)



資料：「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

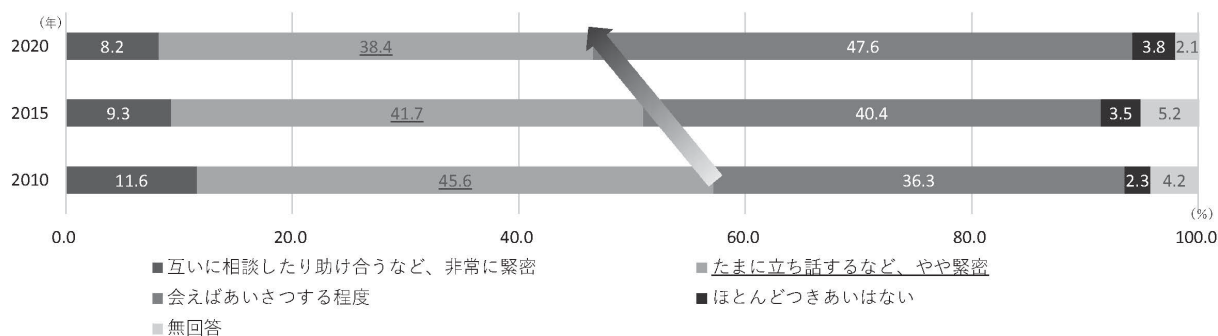
## ②地域環境

■地域は、子ども・若者がさまざまな人間関係や社会体験活動等を通じて、社会性や自主性を培う大切な役割を担っています。

■一方で、地域の人々のつながりの希薄化などを背景として、子ども・若者や保護者が地域活動に参加する機会や、さまざまな人々と触れあう機会が減少しています。また、新型コロナウイルス感染症の影響も懸念されています。

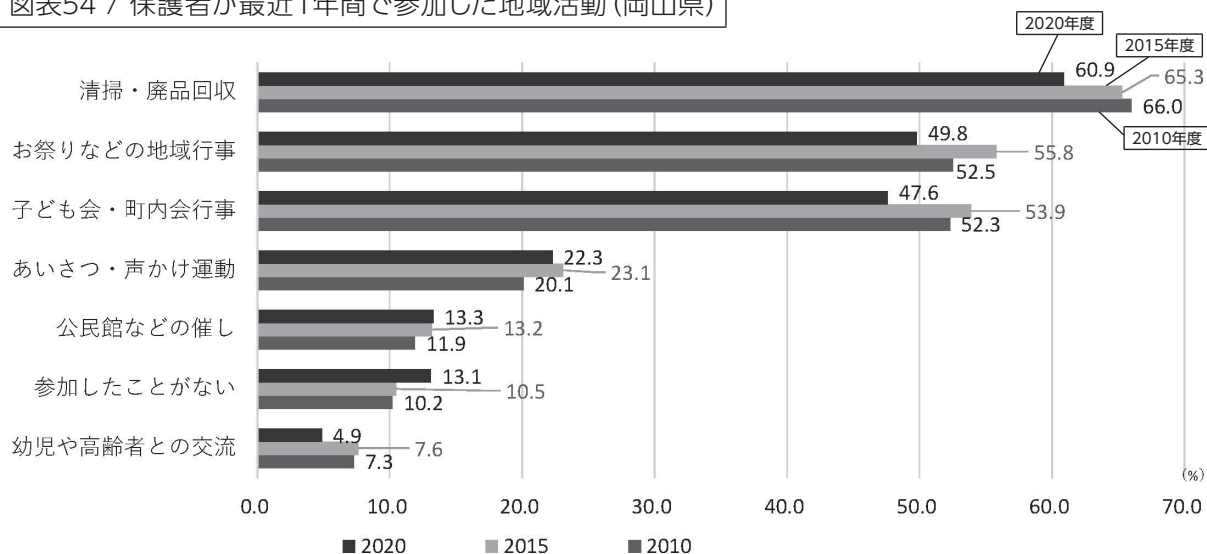
■「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)によると、保護者が青少年の健全育成のために必要だと思うこととして、「家庭でのしつけや教育を充実すること」、「家庭・学校・地域が連携して、青少年の健全育成に取り組むこと」との回答が多くなっています。

図表53 / 保護者の近所つきあいの程度 (岡山県)



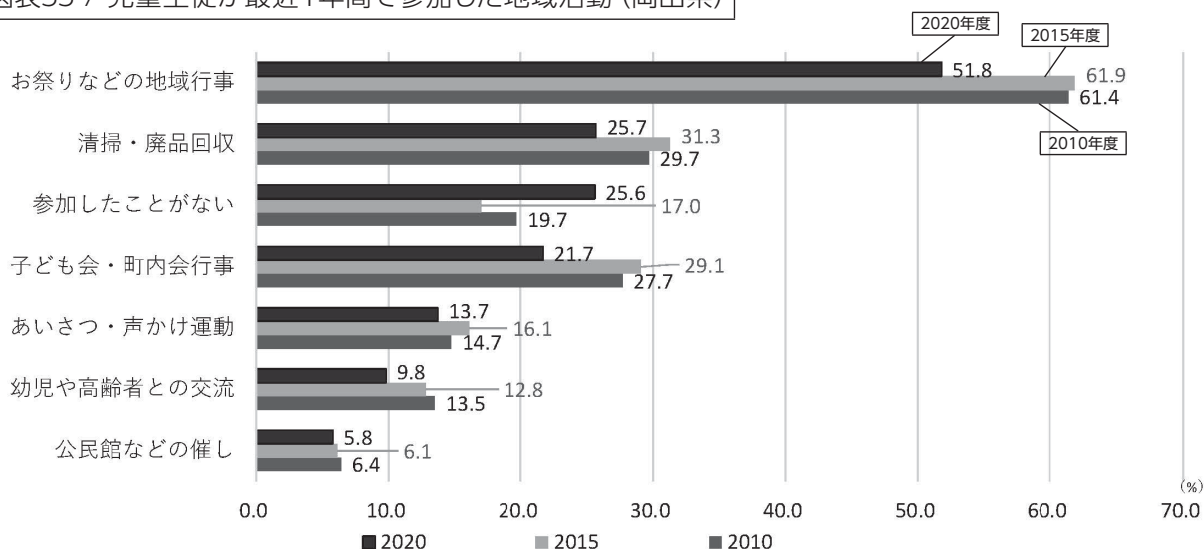
資料：「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

図表54 / 保護者が最近1年間で参加した地域活動(岡山県)



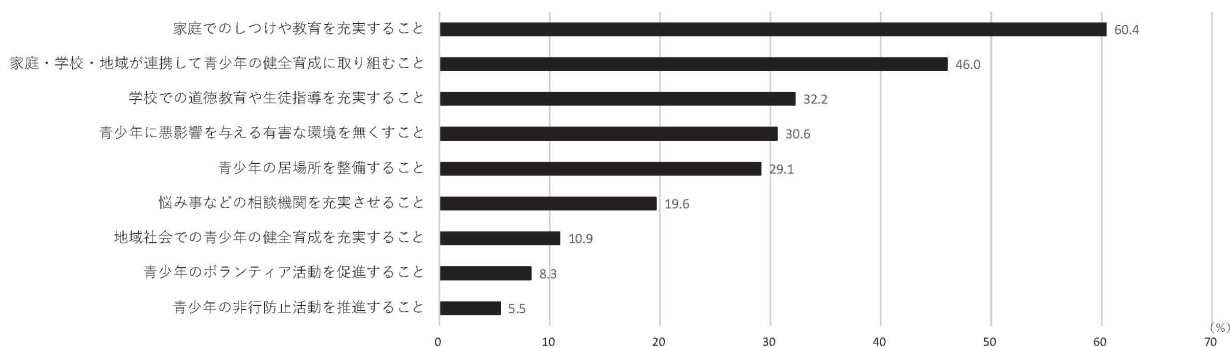
資料:「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

図表55 / 児童生徒が最近1年間で参加した地域活動(岡山県)



資料:「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

図表56 / 保護者が青少年の健全育成のために必要だと思うこと(岡山県)



資料:「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

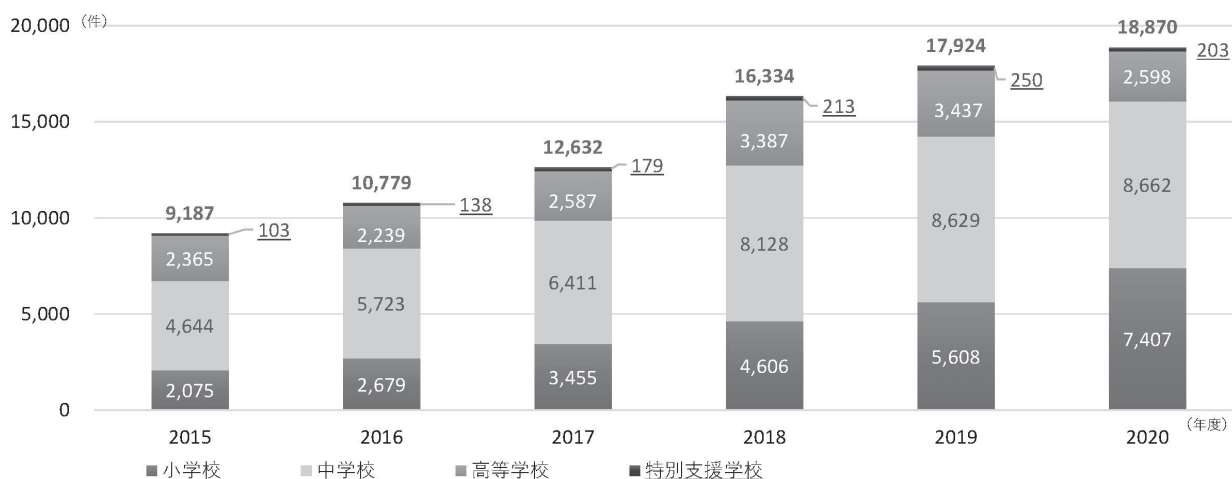
### ③子ども・若者を取り巻く社会環境

#### (1)スマートフォン・インターネット問題

- インターネットの利用率、スマートフォン等の所持率の上昇に伴い、インターネット上の誹謗中傷やいじめ、SNSに起因する犯罪被害も発生しています。
- 「令和2年における少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況」(警察庁)によると、全国において、SNSに起因する事犯の被害児童の9割近くがフィルタリング<sup>※</sup>を設定していない状況にあります。
- 「令和2年度公立学校におけるスマートフォン等の利用実態調査」(岡山県教育委員会)によると、本県において、フィルタリングを設定している児童生徒の割合は4割程度にとどまっています。
- 「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)によると、保護者が子育てやしつけについて、悩みや不安を感じていることとして、「スマホやインターネットの使い方」が最も高くなっており、子どもたちの約半数が「スマホやインターネットをしているときに危険な目にあうかもしれないと不安になる」と感じています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、スマートフォンやインターネット、ゲームの利用時間の増加や、SNSに起因するトラブルや犯罪被害の増加などが懸念されています。

※**フィルタリング**：インターネット上のウェブサイト等を一定の基準に基づき選別し、青少年に有害な情報の閲覧をできなくするプログラムやサービス

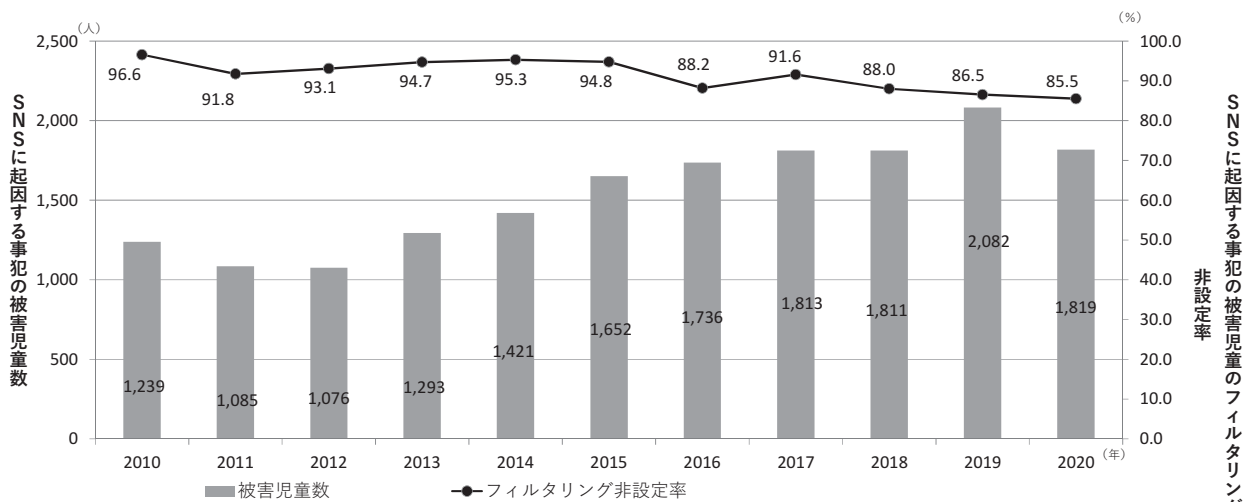
図表57 / パソコンや携帯電話での誹謗中傷被害の推移(全国)



資料：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(文部科学省)

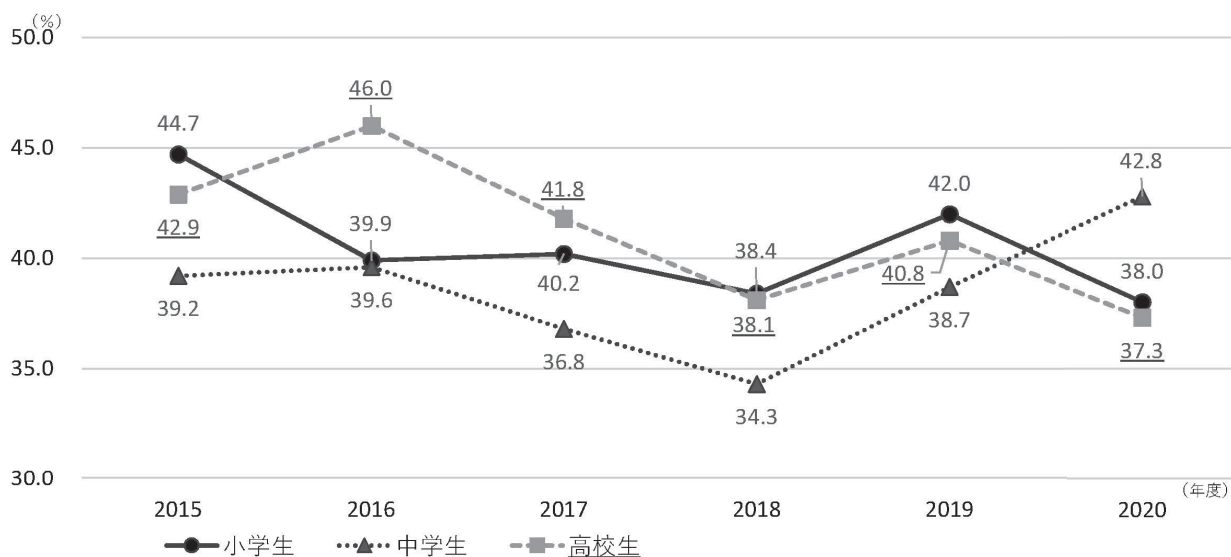


図表58 / SNSに起因する事犯の被害児童数及び被害児童のフィルタリング非設定率の推移(全国)



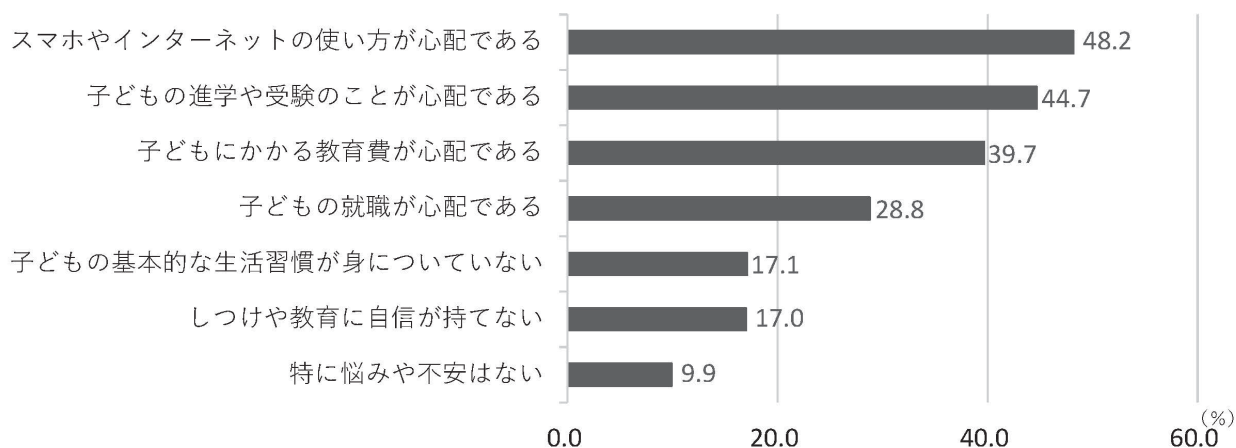
資料：「令和2年における少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況」(警察庁)

図表59 / フィルタリングを設定している児童生徒の割合の推移(岡山県)



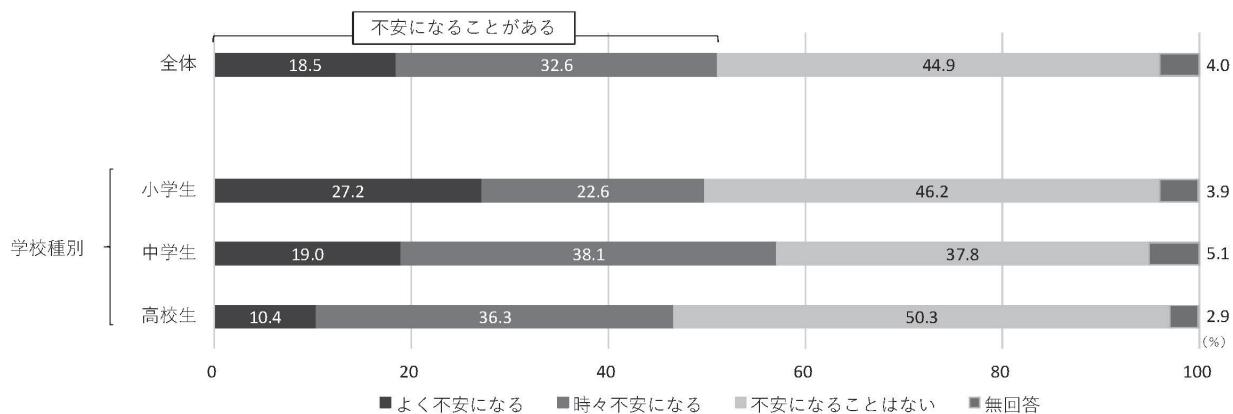
資料：「公立学校におけるスマートフォン等の利用実態調査」(岡山県教育委員会)

図表60 / 保護者が子育てやしつけで感じる悩みや不安(岡山県)



資料:「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

図表61 / 児童生徒がスマートフォンやインターネットをしているときに感じる不安(岡山県)



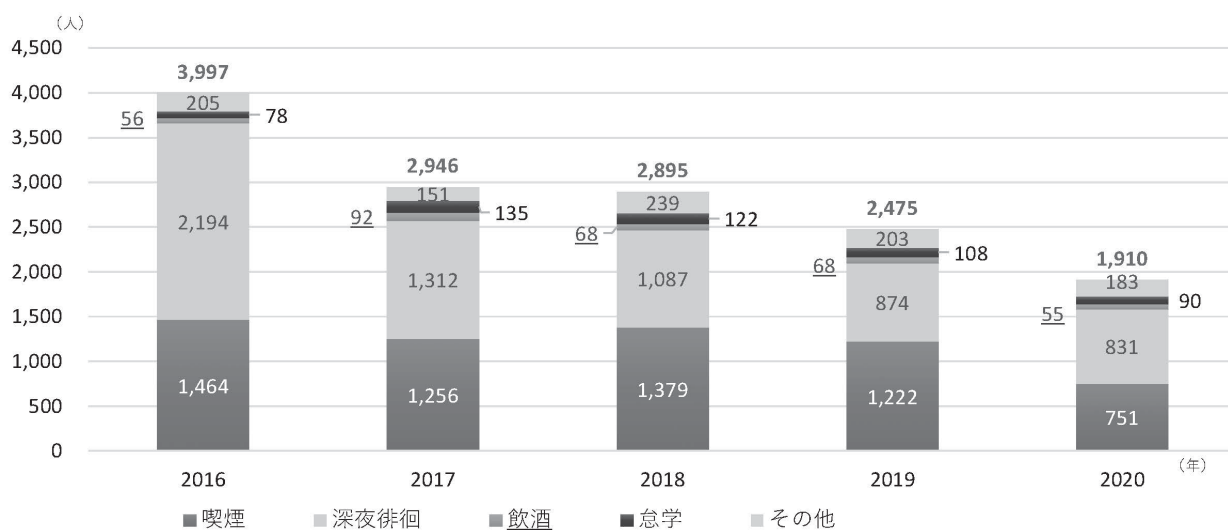
資料:「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

## (2)健全育成に支障を生じるおそれのある行為

■本県の不良行為少年(20歳未満)の補導状況は減少傾向にありますが、喫煙・深夜徘徊が全体の8割を占めており、これらの不良行為は、非行の入り口であり、事件・事故に直結しやすく、犯罪の加害者や性犯罪の被害者になる危険性があります。

■「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)によると、健全育成に支障を生じるおそれのある行為に対する認識について児童生徒と保護者を比較すると、「深夜外出」や「スマートフォンやインターネット上で知り合った人と実際に会うこと」、「インターネット等で有害な情報を見ること」に対する認識に差があります。

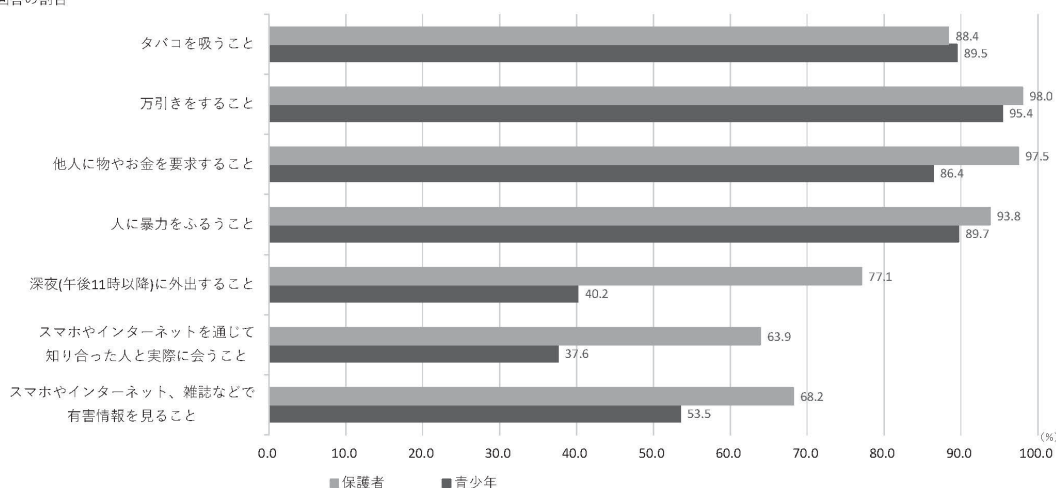
図表62 / 不良行為少年の補導状況(岡山県)



資料：岡山県警察本部

図表63 / 児童生徒と保護者の健全育成に支障を生じるおそれのある行為についての認識の差(岡山県)

※「とても悪い」という回答の割合

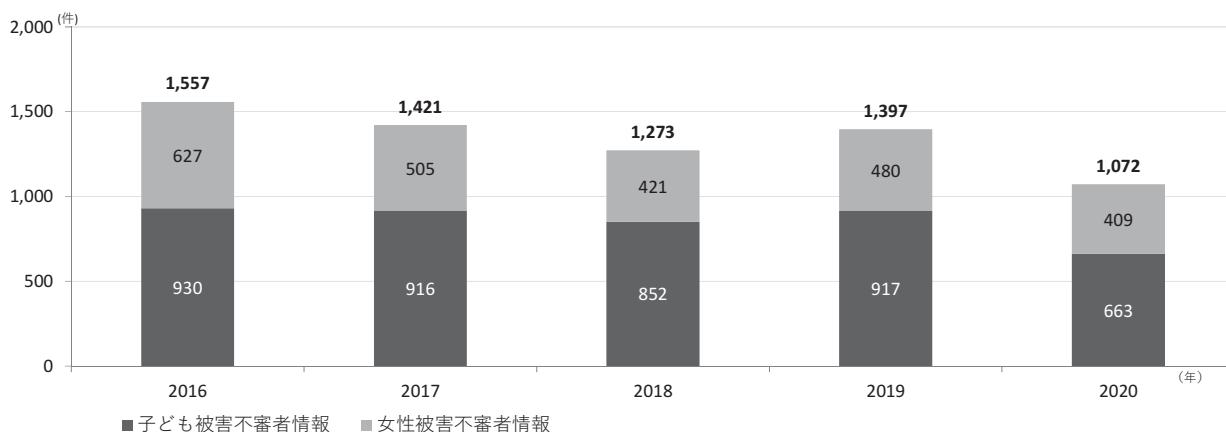


資料：「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

### (3)子ども・若者の安全・安心

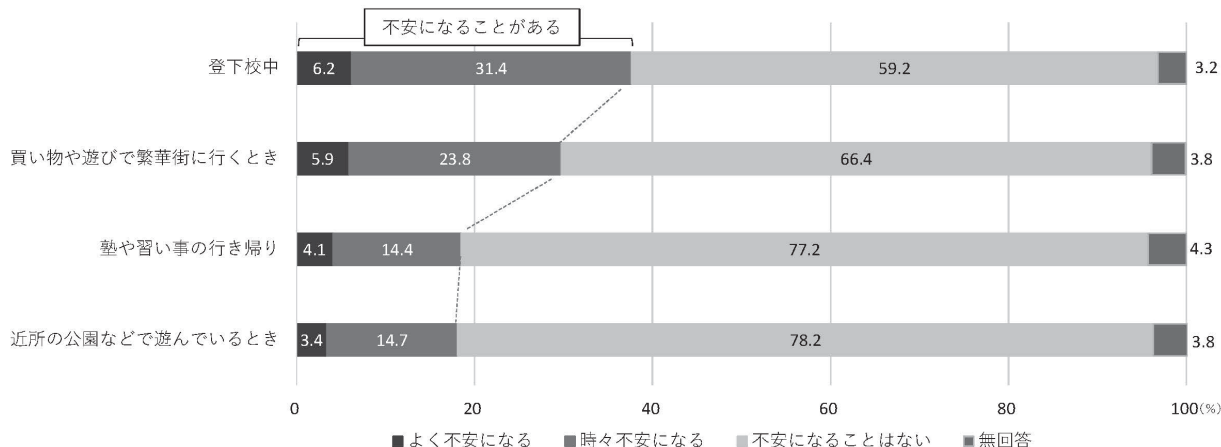
- 警察が認知した子どもや女性を対象とした犯罪や不審者に関する情報が1,000件を超えており、子ども(18歳未満)については、令和2(2020)年には663件となっており、毎日約1.8人の子どもが、犯罪に巻き込まれたり、不審者に遭遇しています。
- 「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)によると、約4割の児童生徒が登下校中に危険な目に合うかもしれないと「よく不安になる」「時々不安になる」と感じています。
- 子どもたちを巻き込んだ犯罪が発生する中で、学校・家庭・地域が連携し、社会全体で有害環境や犯罪被害から子ども・若者を守る取組が求められています。

図表64 / 不審者情報認知件数の推移(岡山県)



資料：岡山県警察本部

図表65 / 児童生徒から見た地域の安全に対する不安(岡山県)



資料：「青少年の意識等に関する調査」(令和2(2020)年度 岡山県)

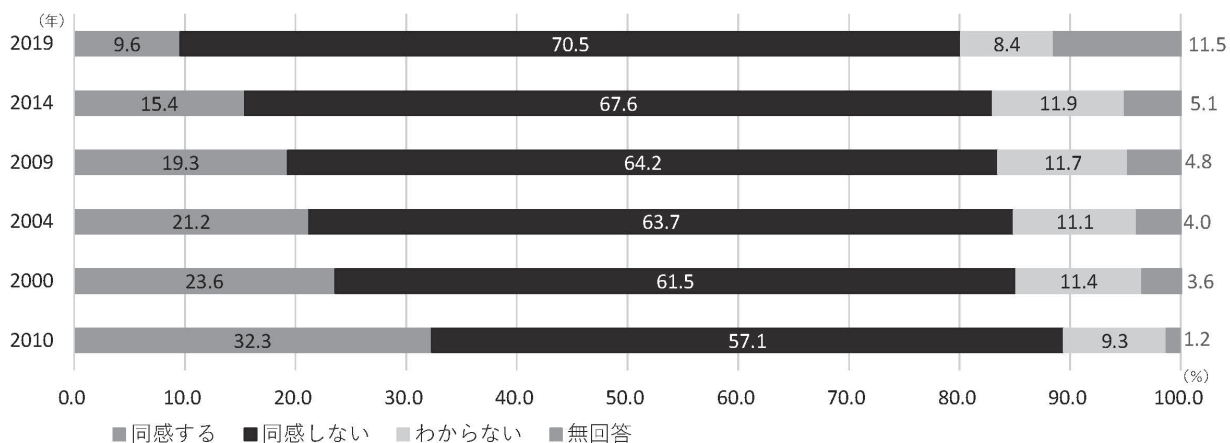
#### (4)男女共同参画に関する意識とワーク・ライフ・バランス\*

■「男女共同参画社会に関する県民意識調査」(令和元(2019)年度 岡山県)によると、「男は仕事、女は家庭」という考え方に約7割が「同感しない」と回答するなど、固定的な性別役割分担意識は改善傾向にありますが、家庭での役割については、依然として、「家事・育児等は妻」、「生活費を稼ぐのは夫」の役割との認識が高くなっています。

■ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)に対する意識については、仕事をしている人の約6割が「ワーク・ライフ・バランスが取れている」と考える一方で、就労している人の日常での優先度については、希望としては、「仕事、家庭生活、地域・個人の生活をともに優先」したいとしているが、現実・現状としては「仕事」を優先させている傾向があります。

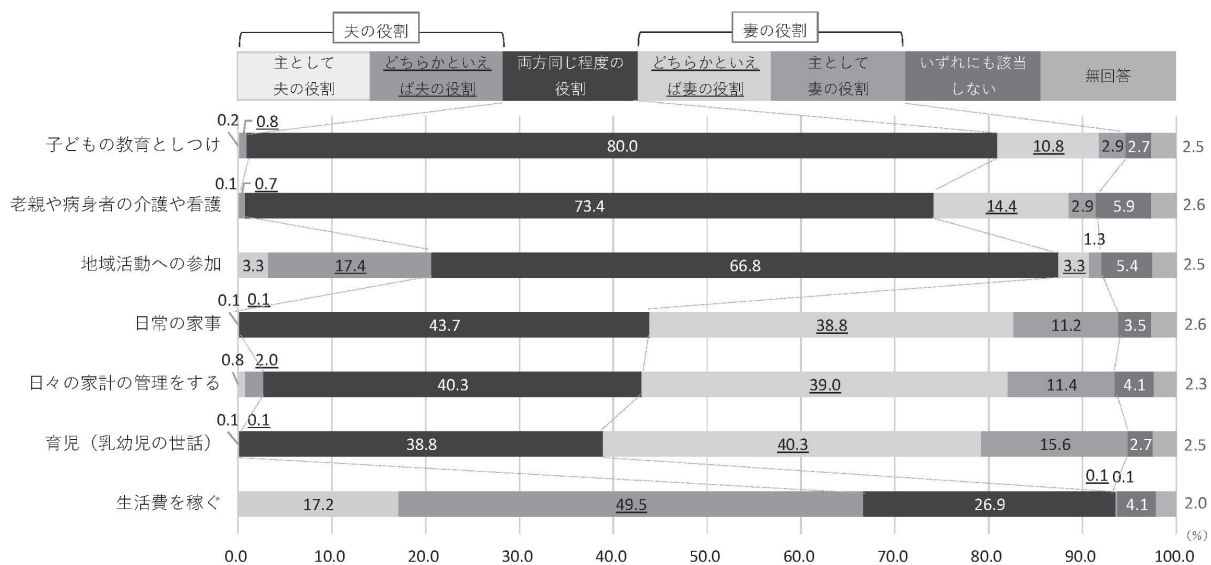
※ワーク・ライフ・バランス：一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることをいう。

図表66 / 「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感するか(岡山県)



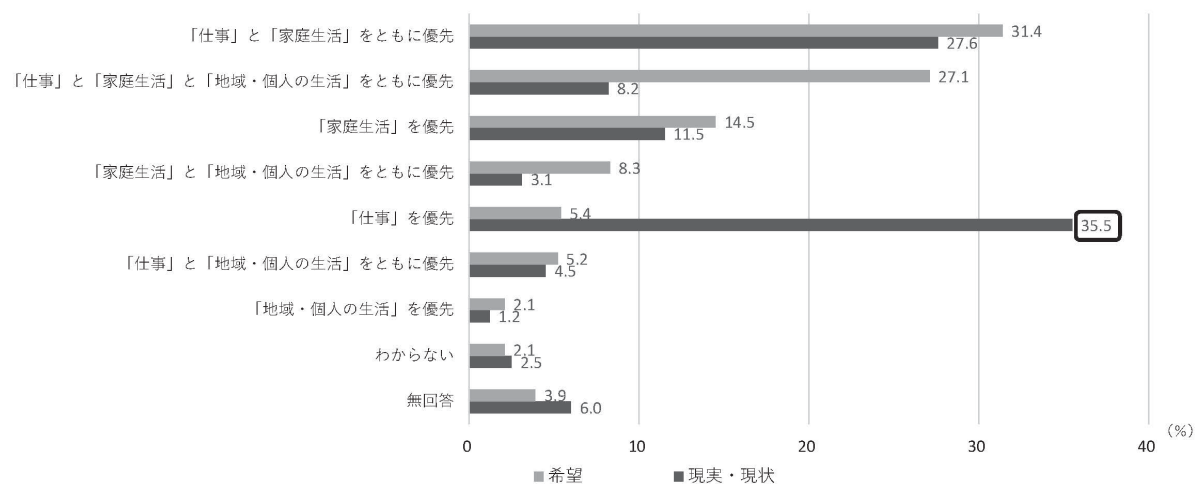
資料：「男女共同参画社会に関する県民意識調査」(令和元(2019)年度 岡山県)

図表67 / 家庭での役割についての考え方(岡山県)



資料：「男女共同参画社会に関する県民意識調査」(令和元(2019)年度 岡山県)

図表68 / 就労している人の日常の優先度：希望と現実・現状(岡山県)



資料：「男女共同参画社会に関する県民意識調査」(令和元(2019)年度 岡山県)